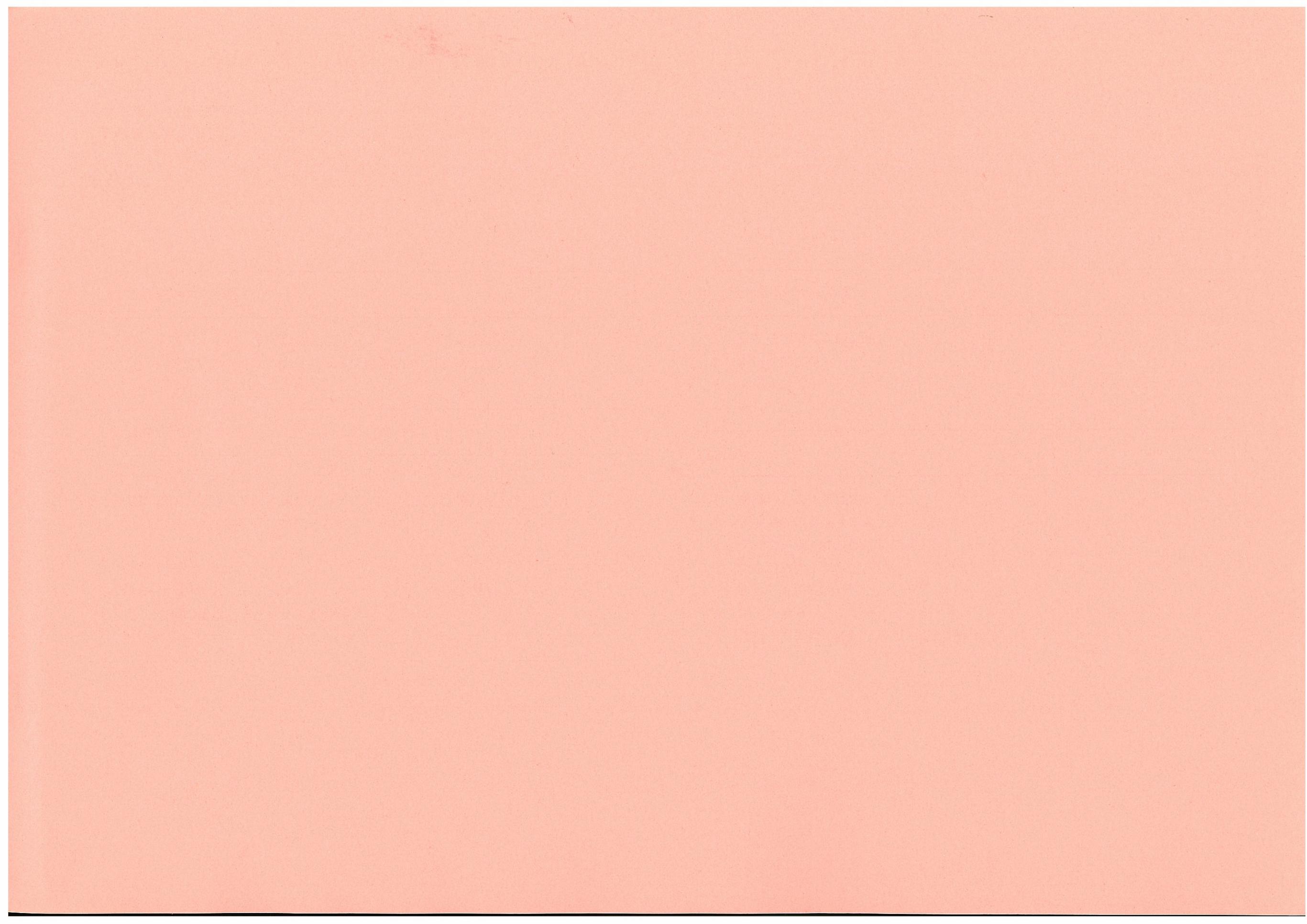


港北地区 中川駅及び大熊駅駅前広場修景基本設計 報告書

平成4年6月 住宅・都市整備公団 港北開発局／(株)齊藤邦彦アンド・アソシエイツ



港北地区 中川駅及び大熊駅駅前広場修景基本設計

中川駅 完成予想図

大熊駅 完成予想図

目次

はじめに

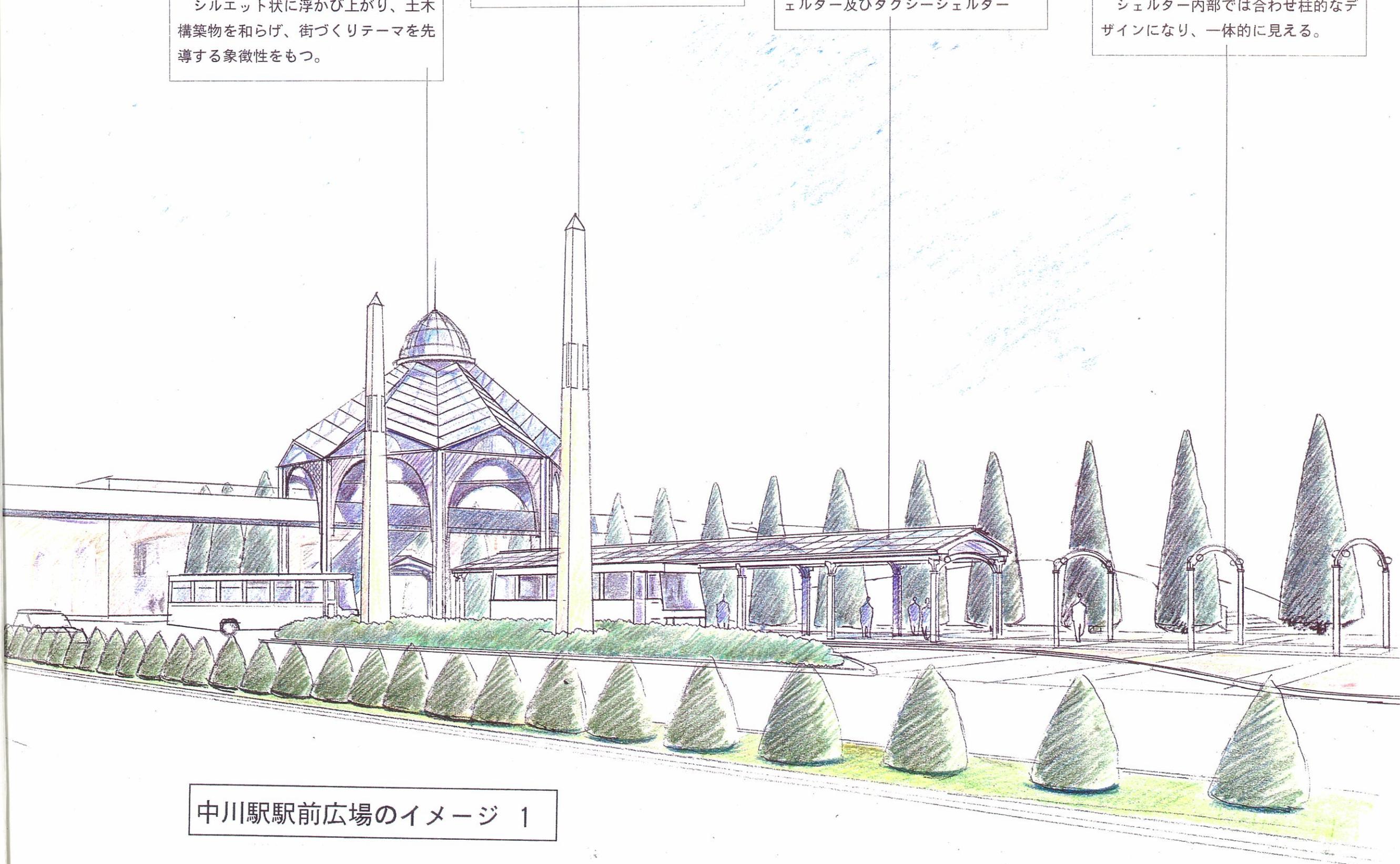
I 設計条件の整理	2	IV 実施設計への課題	47
(1) 位置図 (2) 中川駅の敷地現況 (3) 大熊駅の敷地現況 (4) 周辺施設の現況 (5) 広場内交通施設 (6) 鉄道からの条件		1 両駅前広場の共通課題 2 中川駅前広場 3 大熊駅前広場	
II 設計方針	12	資料編	49
1 中川駅前広場: (1) 基本的課題 (2) デザインテーマ (3) 具体的方法へ (4) 広場の構成要素とアプライ方法		1 横浜市との協議経緯 2 T型基礎位置図及び施工図 3 テーパーポール位置図及び施工図 4 駅舎設計図 5 FC-6橋梁設計図 6 中川駅前センター街づくり協定 7 横浜市交通局の駅前広場への彫刻設置について	
2 大熊駅前広場 (1) 基本的課題 (2) デザインテーマ (3) 具体的方法へ (3) 広場の構成要素とアプライ方法			
III 基本設計	19		
1 整備概要一覧 (1) 中川駅前広場 (2) 大熊駅前広場			
2 基本設計図 (1) 中川駅前広場 (2) 大熊駅前広場			

“ヨーロッパ中世”を代表する尖塔ドームをモチーフとした連絡シェルター。
シルエット状に浮かび上がり、土木構築物を和らげ、街づくりテーマを先導する象徴性をもつ。

オベリスクをモチーフとした照明
(自動車用)

“ヨーロッパ中世”のキーワードである回廊(コリドール)を用いたバスシェルター及びタクシーシェルター

回廊(コリドール)をモチーフにした照明(歩行者用)
シェルター内部では合わせ柱的なデザインになり、一体的に見える。

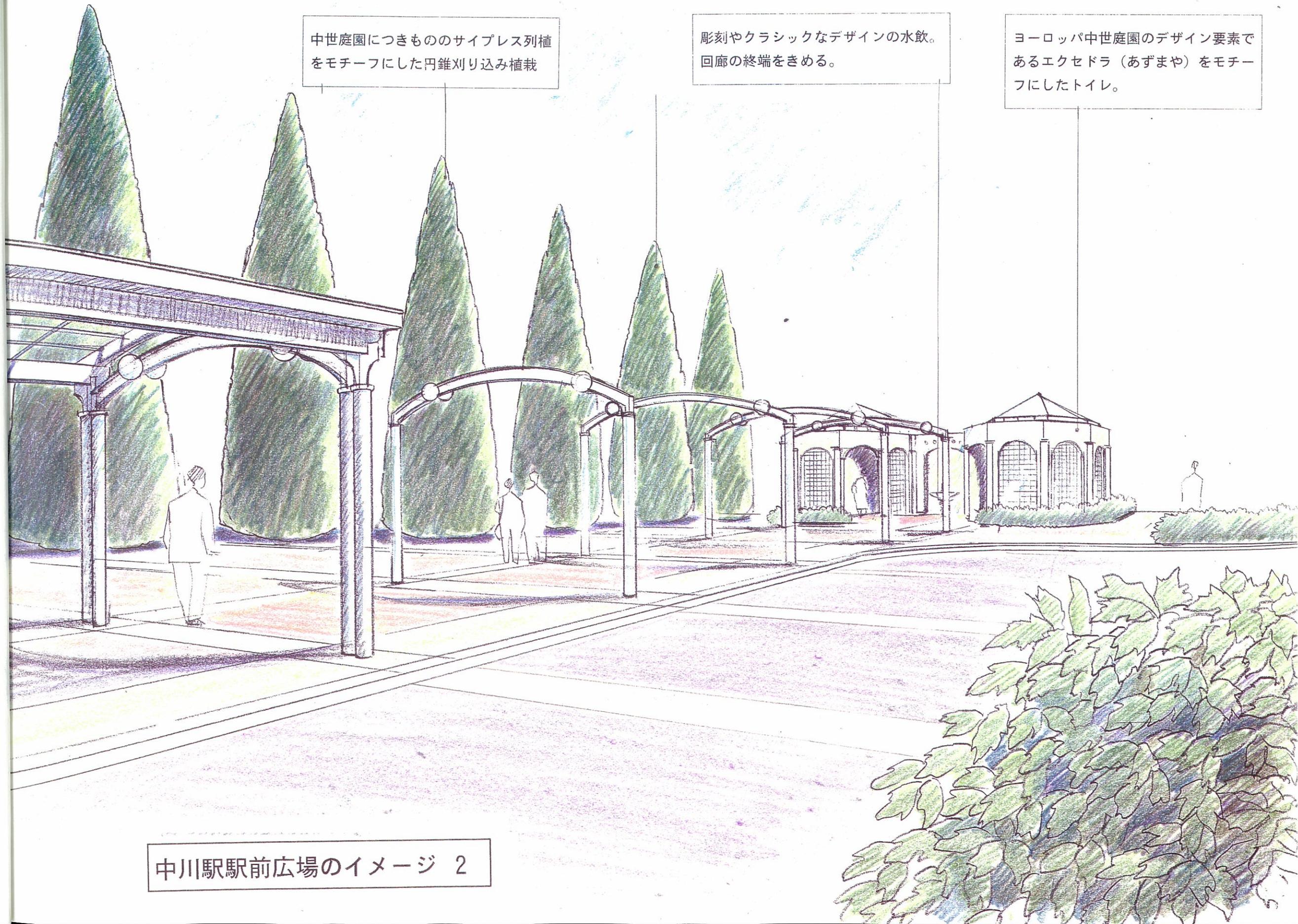


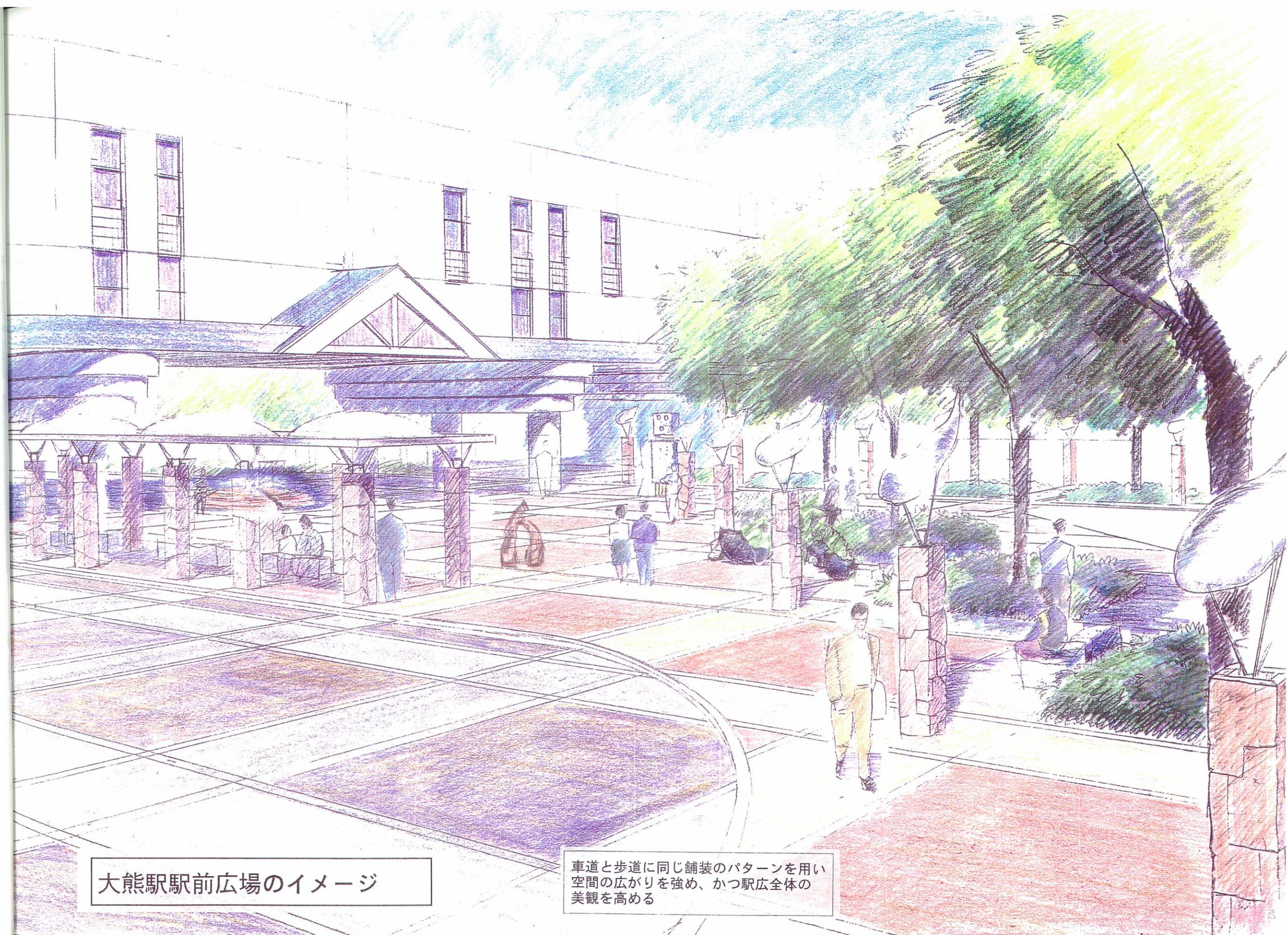
中川駅駅前広場のイメージ 1

中世庭園につきもののサイプレス列植
をモチーフにした円錐刈り込み植栽

彫刻やクラシックなデザインの水飲。
回廊の終端をきめる。

ヨーロッパ中世庭園のデザイン要素で
あるエクセドラ（あずまや）をモチー
フにしたトイレ。





大熊駅駅前広場のイメージ

車道と歩道に同じ舗装のパターンを用い空間の広がりを含め、かつ駅広全体の美観を高める

はじめに

港北ニュータウンでは、平成5年度早期に横浜市営高速鉄道3号線の延伸が計画されており、ニュータウン内に4駅が開設される予定となっている。その内、中川駅及び大熊駅の駅前広場については、駅開設時点までに整備を完了すべく事業が進められている。

駅前広場は、港北ニュータウンの表玄関としての役割を果たすことから、駅前広場整備にあたっては、ニュータウンにふさわしい質の高い整備を図る必要がある。

本報告書は、中川駅、大熊駅の各駅前広場について、既に決定している広場形態を基に駅周辺状況や立地特性、周辺のまちづくりの現況を踏まえたデザインテーマを設定し、駅前広場を形成する各構成要素について行った基本設計をとりまとめたものである。

なお、本修景基本設計と平行して、設計内容について横浜市との協議を行った。協議の場に出された指摘事項に基づき、設計内容を修正するとともに、実施設計レベルの指摘事項については、第4章の「実施設計への課題」に記載した。

平成4年6月

(ワーキング)

住宅・都市整備公団港北開発局

事業部専門役 池崎 和夫 (前任)

大墨 宗重 (後任)

事業計画第二課係長 越智 武雄

(株)齊藤邦彦アンド・アソシエイツ

代表取締役 齊藤 邦彦

小野 治

橋爪 哲生

Ⅰ 設計条件の整理

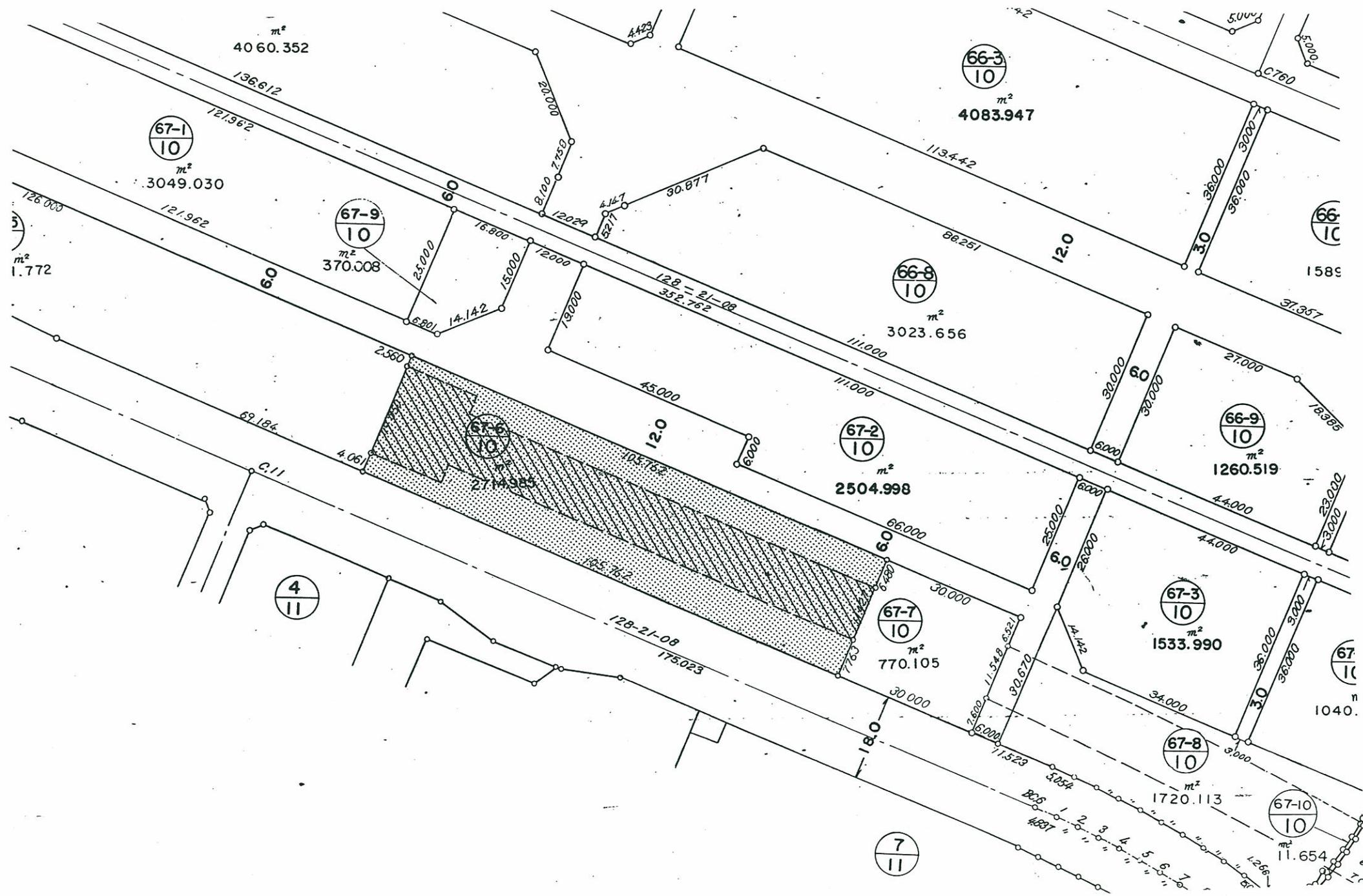
(2) 中川駅の敷地現況

① 中川駅街区確定図：下図のとおり

② 面積 2715 m²

③ 鉄道地上権

図中ハッチ部分地下に鉄道構造物がある。



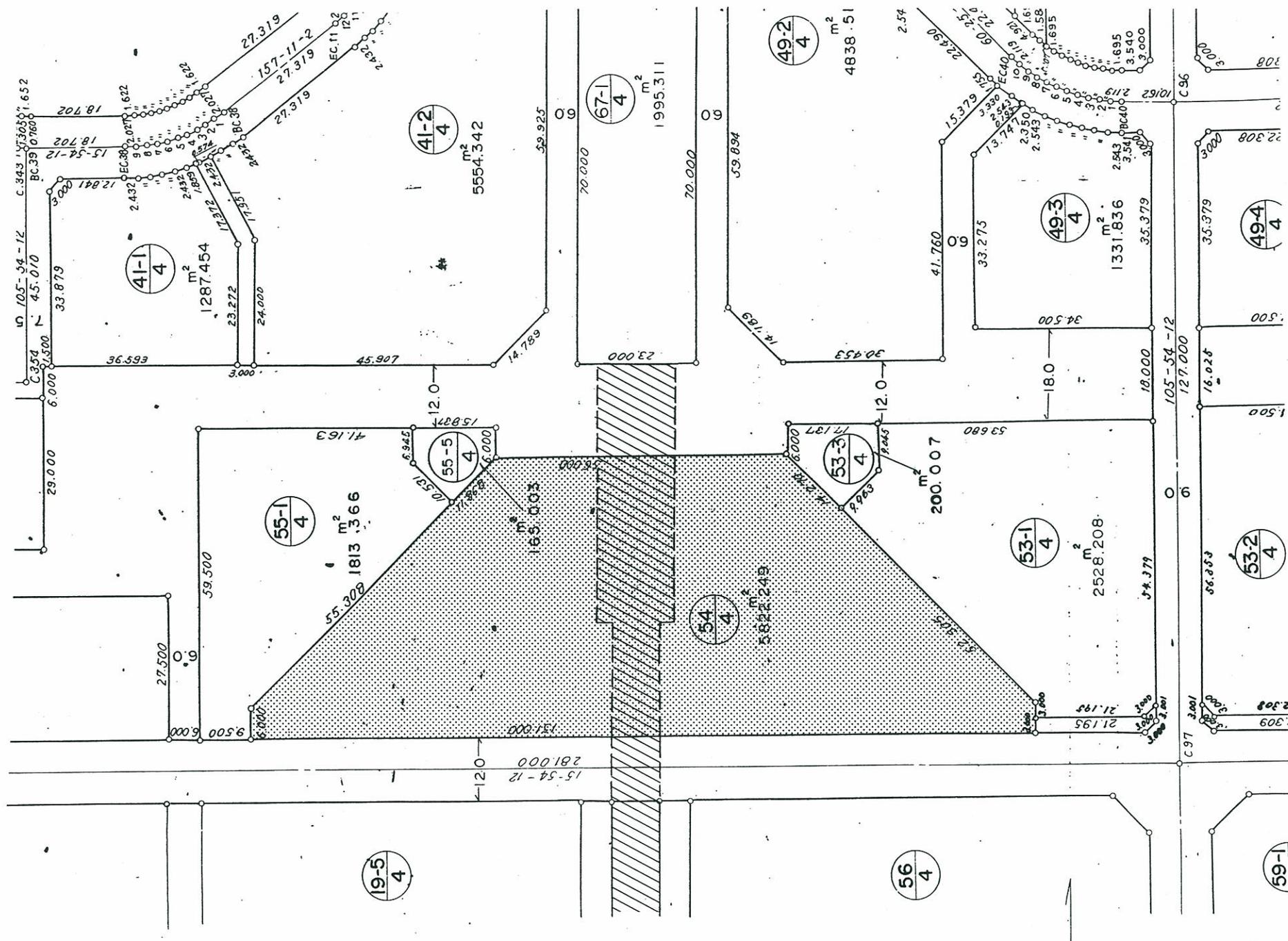
(3) 大熊駅の敷地現況

① 大熊駅街区確定図：下図のとおり

② 面積 58222 m²

③ 鉄道地上権

図中ハッチ部分上部に鉄道構造物がある。



(4) 周辺施設の現況

① 中川駅

○中川駅前センター

平成元年度に供用開始され、比較的早い速度でビルトアップが進行している。駅前には郵便局が開設済みであり、また、フィットネスクラブが建設中である。

この地区には街づくり協定が締結されており、“ネオロマンチック”ヨーロッパの街並みをイメージテーマとして景観づくりが行われている。

○駅南側

集合住宅「ガーデンヒルズ」 603戸入居済

○駅北西

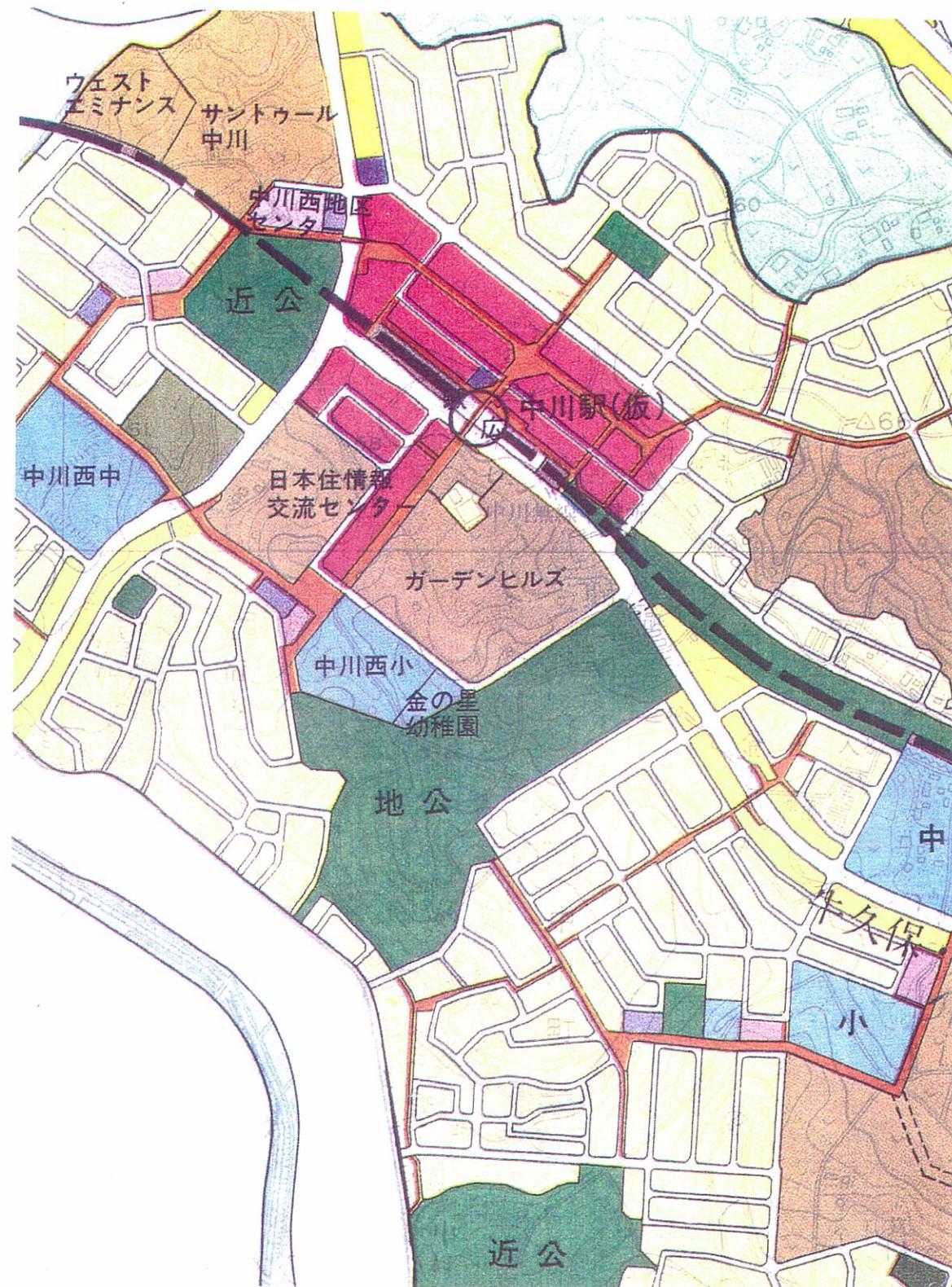
集合住宅「サントゥール中川」 641戸入居済

集合住宅「ウエストエミナンス」 93戸入居済

中川西地区センター開設済

○駅西

日本住情報交流センターの立地が予定されている。



② 大熊駅

○大熊駅センター

平成4年度の供用開始すべく工事中

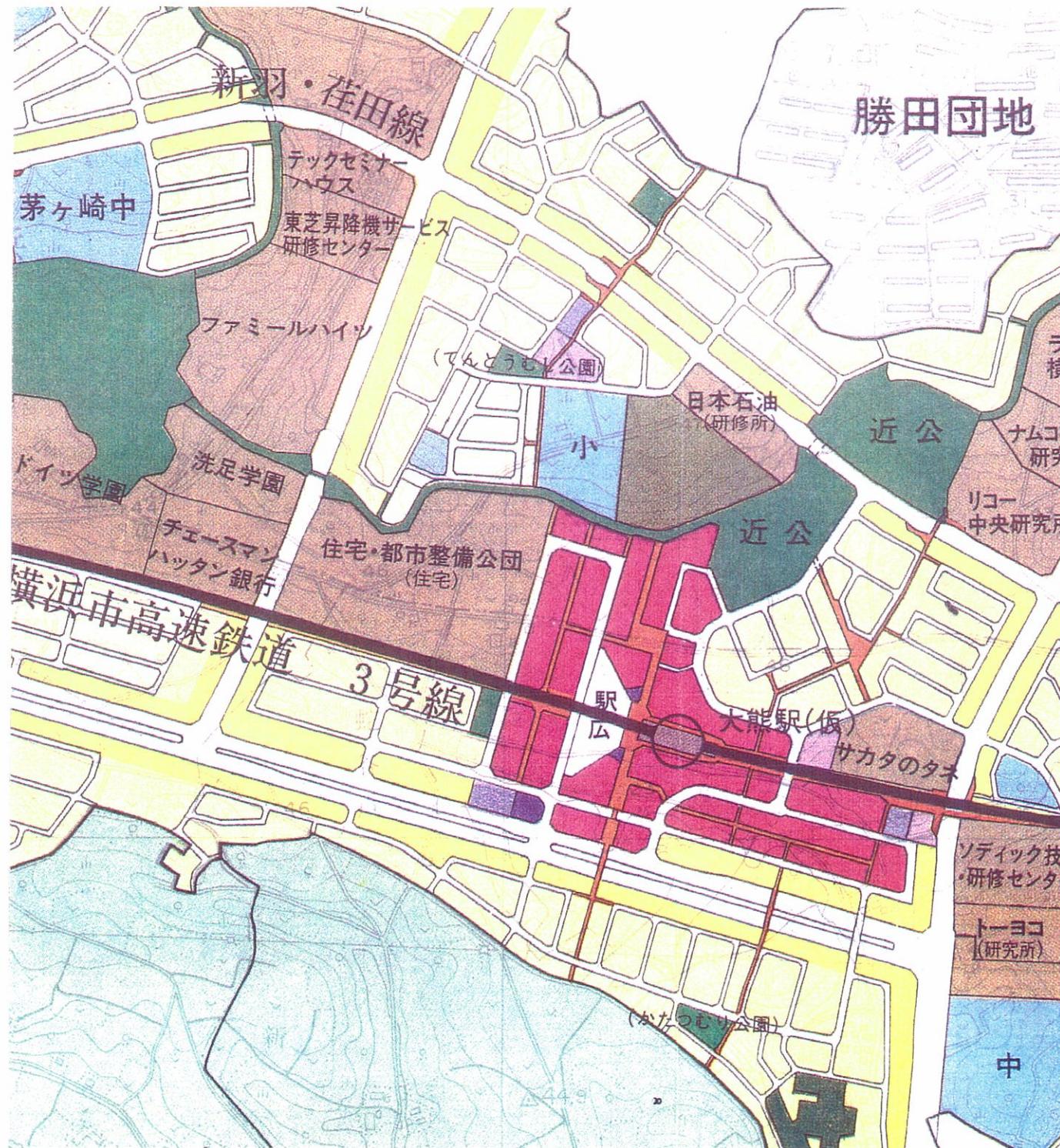
○駅西側

公団関東支社による集合住宅を計画中(約860戸)

洗足学園、チェースマンハッタン銀行の立地が予定されている。
ドイツ学園が開校されている。

○駅東側

ソデック技術・研修センター及びトヨタ地球環境研究所が開設されている。
サカタのタネの本社が立地予定

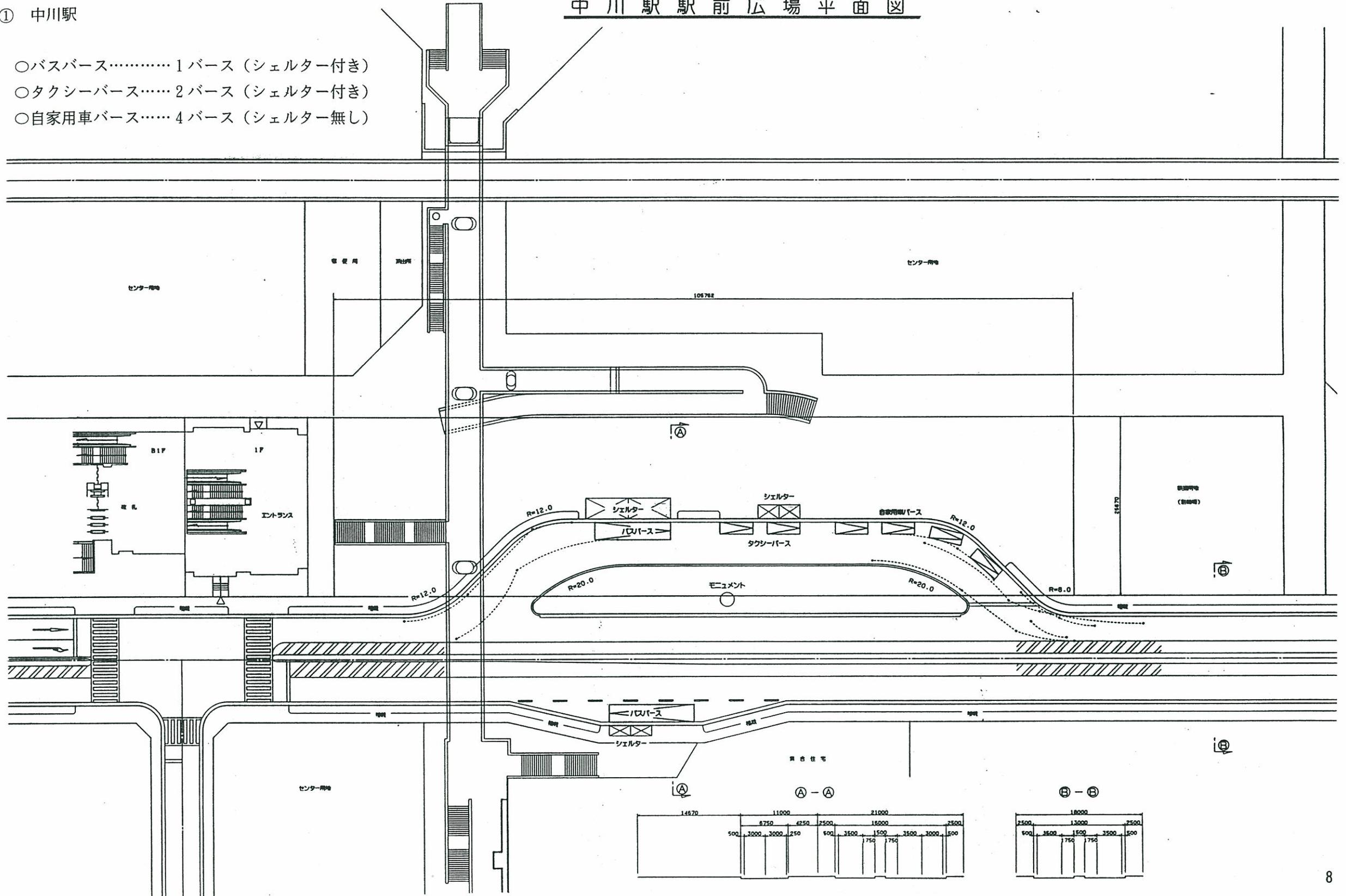


(5) 広場内交通施設

① 中川駅

- バスバス..... 1バス (シェルター付き)
- タクシーバス..... 2バス (シェルター付き)
- 自家用車バス..... 4バス (シェルター無し)

中川駅駅前広場平面図



(6) 鉄道からの条件

① 中川駅

駅前広場を縦断して、地下鉄構造物が設置されている。この構造物の土被りは駅舎部分で5100程度となっている。

地下鉄構造物には、「横浜市高速鉄道構造物近接工事施工の手引き」（平成4年1月）によって、近接工事に対する制限が行われている。ただし、小規模土木構造物と小規模建築工事については対象とならない。

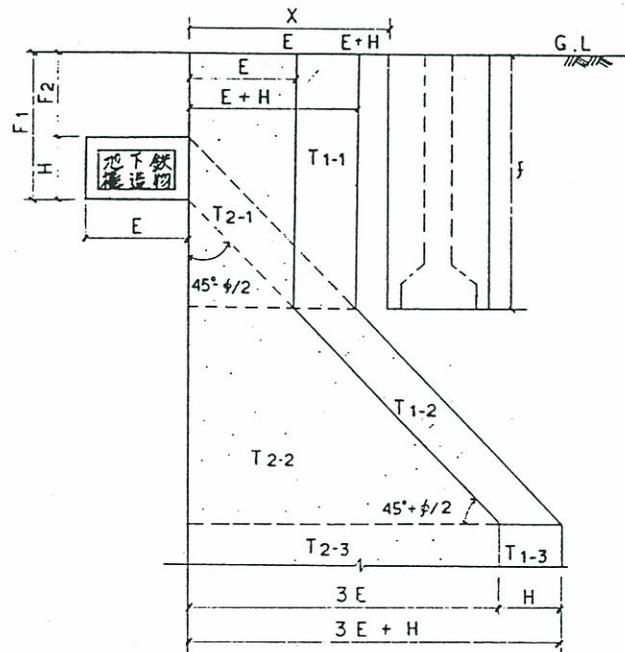
当該駅前広場に関連する制限をあげると次のようになる。

○ 直上施工

- 上載荷重……………1100kg/m²未満
ただし、掘削による土荷重の低減は考慮できる。
余盛りした場合は、制限荷重からその荷重だけ減ずるものとする。
- 新設構造物の基礎形式……………ベタ基礎または構造物上に等分布荷重となる基礎とする。
杭基礎の禁止
- 仮設杭……………やむを得ず仮設杭を地下鉄構造物上に打ち込む場合は、路面荷重等の荷重受杭としての使用は禁止する。

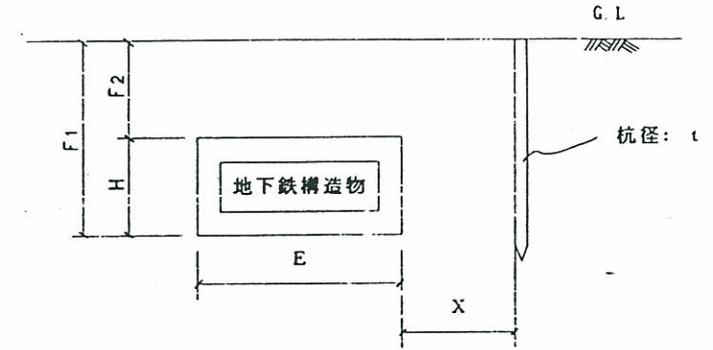
○ 側部施工

• 開削工事



- ① 要注意範囲 (T₁) ; T₁₋₁、T₁₋₂、T₁₋₃で定まる範囲
- (T₁₋₁) $E < X \leq E + H$
 - (T₁₋₂) $(f - F_1) \tan(45^\circ - \phi/2) < X \leq (f - F_2) \tan(45^\circ - \phi/2)$
 - (T₁₋₃) $3E < X \leq 3E + H$
- ② 条件範囲 (T₂) ; T₂₋₁、T₂₋₂、T₂₋₃で定まる範囲
- (T₂₋₁) $X \leq E$
 - (T₂₋₂) $X \leq (f - F_1) \tan(45^\circ - \phi/2)$
 - (T₂₋₃) $X \leq 3E$

• 杭打工事



1) 既製杭

- ① 要注意範囲 (T₁) ; なし
- ② 条件範囲 (T₂) ; $X < 1/2 E$
- ③ 一般条件
条件範囲内の支持杭は原則として地下鉄構造物底板以下まで打込むものとする。

ただし、条件範囲内の杭は穿孔して打込むものとする。

2) 場所打杭

- ① 要注意範囲 (T₁) ; $3\phi < X \leq 1/2 E$
- ② 条件範囲 (T₂) ; $X \leq 3\phi$
- ③ 一般条件
条件範囲内の支持杭は原則として地下鉄構造物底板以下まで施工するものとする。
杭打工事は、施工上の誤差、地下鉄構造物の防護スペース等のため、地下鉄構造物から1.0m以内での施工は、原則として、認めないものとする。

② 大熊駅

駅前広場の中央部を地下鉄の高架橋が縦断している。

地下鉄構造物には、「横浜市高速鉄道構造物近接工事施工の手引き」（平成4年1月）によって、近接工事に対する制限が行われている。ただし、小規模土木構造物と小規模建築工事については対象とならない。

当該駅前広場では鉄道は高架となっており、地下構造物への影響はほとんどないと考えられる。近接工事としてのクレーン等重機の使用にさいして注意を行う必要がある。

また、高架構造物に対しての仕上げ等の制限は次の通りである。

- PC製の桁部分は、アンカー等の設置により軀体を損傷することはできない。
- 桁部分における天井荷重は、 $55\text{kg}/\text{m}^2$ 以下とすること。

II 設計方針

1 中川駅前広場

(1) 基本的課題

① ローカルティのある駅前広場として要請される課題

- 中心性がやや欠落している街並みに対し、シンボリックな空間形成を図る。
- 単なる交通施設ではなく、使いやすいオアシス空間として「交流」、「憩い」の機能を持つ。

② 地域のまちづくりから導かれる課題

- まちづくりの取り決めとして、『“中世ヨーロッパ風”の景観形成』を先導するデザイン。

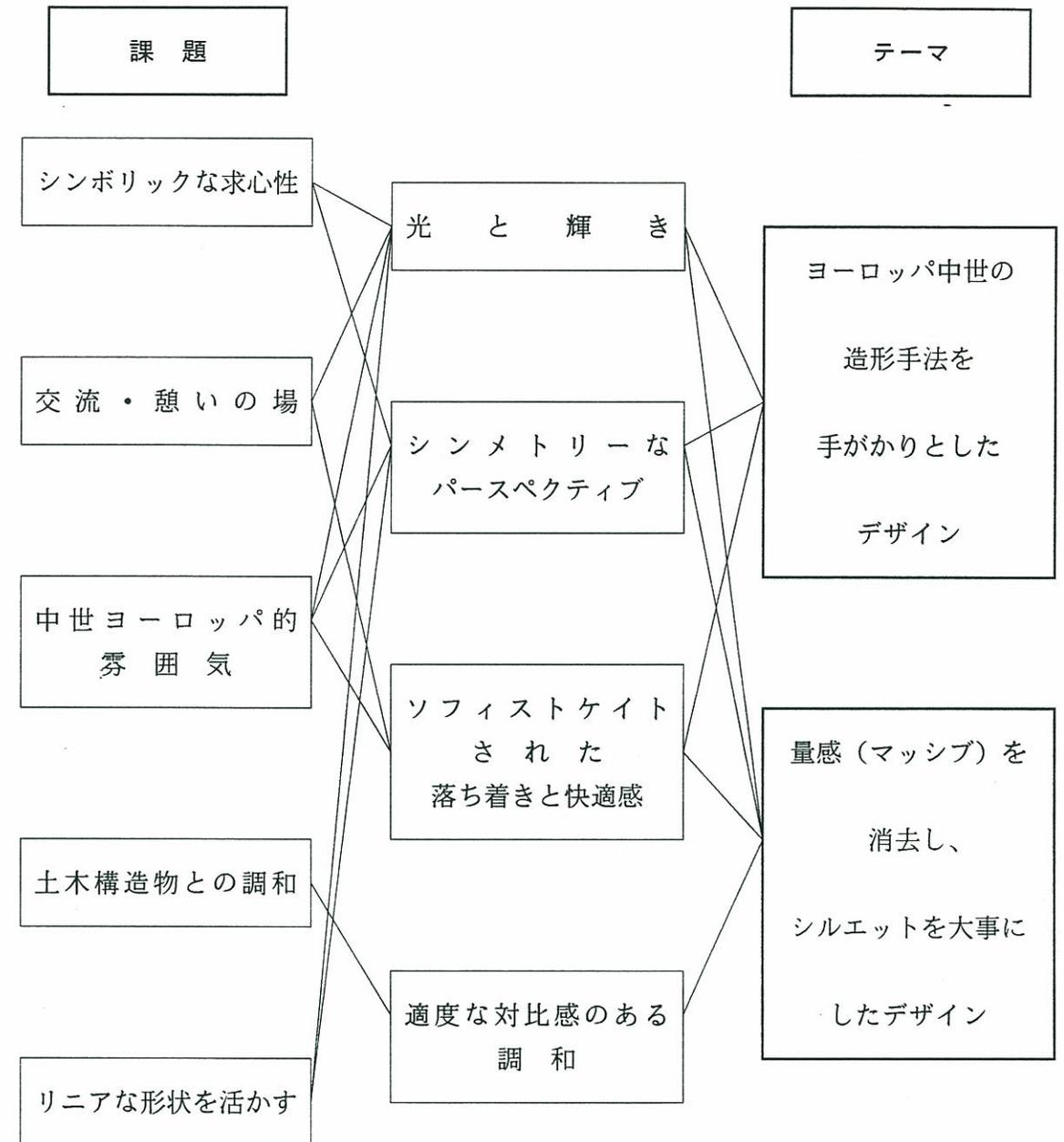
③ オーバーブリッジ等、先行土木構造物から導かれる課題

- モダンとクラシックが折衷された力学的デザインと、街並み景観形成のデザインポリシー（中世ヨーロッパ風）を複合させる工夫。

④ 駅前広場の形状から導かれる課題

- 駐輪場から駅舎にかけて細長いリニアな形状を活かしたデザイン。

(2) デザインテーマ



(3) 具体的方法へ

① 中世ヨーロッパの造形手法を手がかりとしたデザイン

- 「回廊（コリドール）」を用いたデザイン
- 「円」や「星型」等、幾何学的広場デザイン
- 中世を代表するシエナ・レッドを基調にした色彩

② 量感を消去し、シルエットを大事にしたデザイン

- 線材や組み合わせ鋼管による造形
- シルエットを大事にした植栽等

(4) 広場の構成要素とアプライ方法

【駅前広場における各構成要素へのアプライ方法】										
	舗 装		照 明		修 景 物	植 栽	案 内 板	道 路 占 用 物		
	歩 道 部	車 道 部	歩 行 者 用	自 動 車 用	中央モニュメント			シェルター	ト イ レ	電 話 B O X
①ヨーロッパ中世の造形作法を手掛かりとしたデザイン										
回廊（コリドール）を用いたデザイン			列柱とアーチを用いたパースペクティブな照明				未 定	回廊状のシェルター		クラシックなデザイン
「円」や「星型」等、幾何学的広場デザイン		大きなパターンの連続による「広がり」とパースペクティブの強調		オベリスクを用いた全体照明	中央にシンボリックな尖塔ドームをデザインする。	ヒバ等の幾何学的刈り込みによる中世的雰囲気演出	未 定		フランス庭園の「エキセドラ」をモチーフ	
②量感を消去し、シルエットを大事にしたデザイン										
線材や組み合わせ鋼管による造形			線材による中世のシルエットを浮かび上がらせるライティング		線材の複合部材による尖塔ドームのデザイン			鋼管材の組み合わせによる造形		
シルエットを大事にした植栽等						中世庭園を代表する“サイプレス”の列植をシルエットとしてもちいた並木				
③色彩計画										
中世を代表するシエナ・レッドを基調	シエナ・レッドを基調 暖色系	同 左 色調を変える やや寒色系		トラバーチン色	グリーングレイ （フランス青）		未 定	グリーングレイ （フランス青）	グリーングレイ （フランス青）	グリーングレイ （フランス青）

2 大熊駅前広場

(1) 基本的課題

① 駅前センターの核として要請される課題

- 地域の“顔”として、アピール性を持つ。
- タウンセンターとは違った雰囲気のある「都心らしさ」を演出する。
- 単なる交通施設ではなく、情報が受発信される“メディアの場”として「交流」「憩い」の空間を持つ。
- 基幹ペデと一体となって街全体へ展開していく浸透力のあるデザインポリシーを持つ。

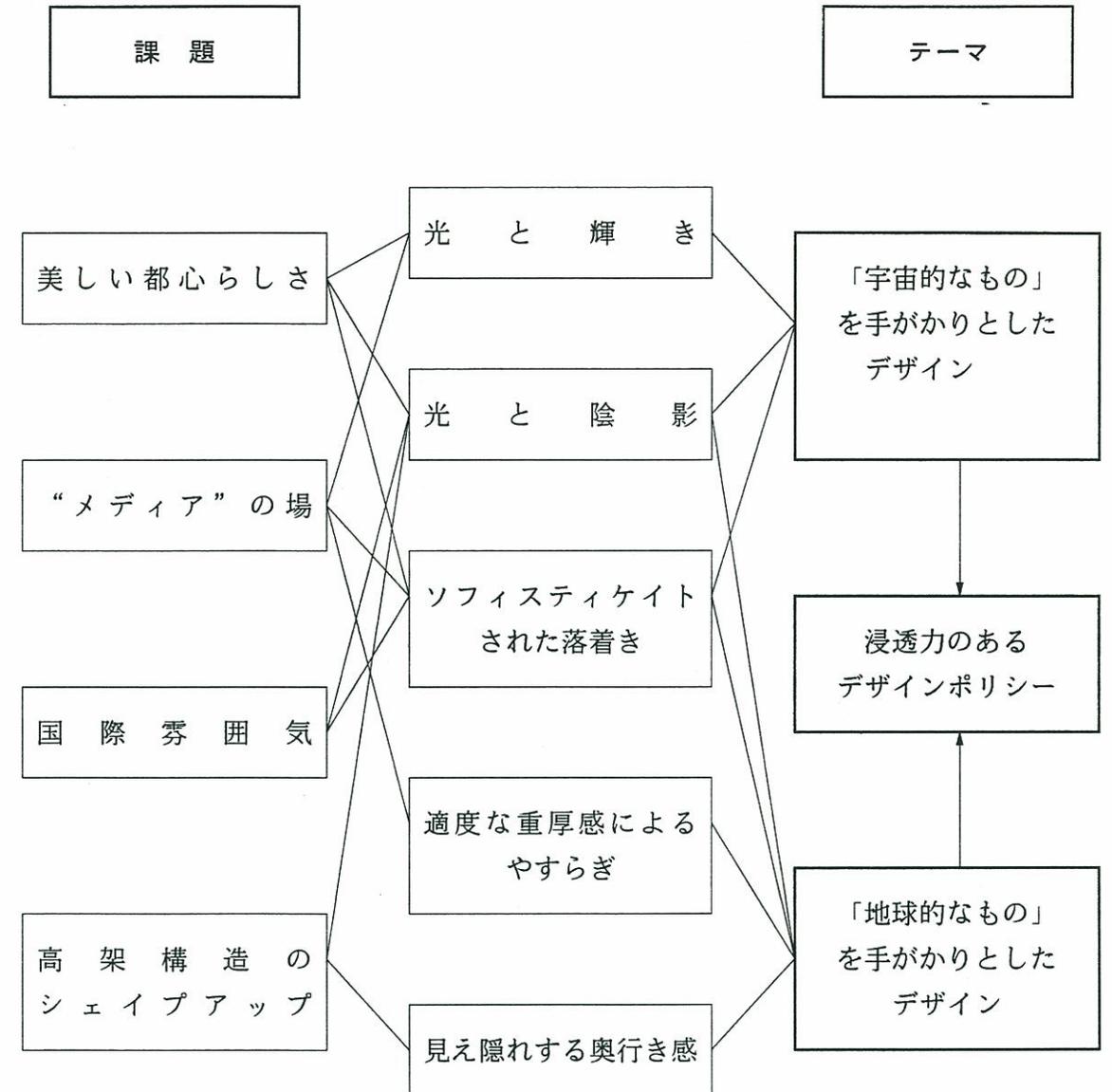
② 駅勢圏の性格から導かれる課題

- ドイツ学園、チェイスマンハッタン銀行が西側に立地することから“国際性”を意識したアーバンデザインとの調和。

③ 3号線の構造から導かれる課題

- 高架構造の圧迫感を和らげ、美しく見せる工夫。
- 高架構造を活用した演出。

(2) デザインテーマ



(3) 具体的方法へ

① 宇宙的なものを手がかりとしたデザイン

- 「星座」をモチーフとしたデザイン
- 「月」の輝きと影
- 「太陽」の輝きと影
- 見上げる方向は宇宙的なコスモブルーを基調色

② 地球的なものを手がかりとしたデザイン

- 「大地」をモチーフとしたデザイン
- 「石」のあたたかみ
- 「水」による爽快感
- 「緑」による落ち着き、安らぎ
- 見下ろす方向は地球的なアースレッドを基調色

(4) 広場の構成要素とアプライ方法

【駅前広場における各構成要素へのアプライ方法】												
	舗 装		照 明			修 景 物		植 栽	案内サイン	道 路 占 用 物		
	歩 道 部	車 道 部	歩 行 者 用	自 動 車 用	高 架 下	水 の 演 出	モ ニ ュ メ ン ト			シ ョ ー タ ー	ト イ レ	電 話 B O X
①宇宙的なものを手がかりとしたデザイン												
「星座」をモチーフとしたデザイン						中央に大きな星座（大熊座）の天球図をデザインする。			「星座早見表」をモチーフにした案内板	各天井に星座の天球図をデザインする。	同 左	
「月」の輝きと影			反射間接照明による月光の輝き								女子トイレのサイン	
「太陽」の輝きと影								落葉高木・常緑高木の組み合わせによる光と影の演出			男子トイレのサイン	
その他宇宙的なもの				惑星・サライトのイメージ								
②地球的なものを手がかりとしたデザイン												
「大地」の存在感・安らぎ・落ち着き 広がりトスケール感	大地的な雰囲気 をワイド フェイス	同 左										
	大きなパターンを連続させて 「広がり」を出す											
「石」のあたたかみ・素朴かつ洗練された質感			石柱の立ち上がり			石のモニュメントと組み合わせた水の演出	様々な石の意匠		台に石を用いた素朴さと高質感	石柱の立ち上がり	同 左	
「水」による生命感・躍動感・リフレッシュ						効果的な水の造形						
「緑」による落ち着き・安らぎ					高木による緑のスクリーン			落葉高木・常緑高木の組み合わせによる光と影の演出				
③色彩計画												
見上げる方向→宇宙的 ……コスモブルーを基調						天球図に神秘的なコスモブルーの輝き				天球図に神秘的なコスモブルーの輝き	同 左	同 左
見下ろす方向→地球的 ……アースレッドを基調	アースレッド・オーカーを基調 暖色系	同 左 色調を変える やや寒色系				大地の積層を表現する造形						

III 基本設計

1 整備概要一覧

(1) 中川駅駅前広場

①. 道路本体・付属物

構成要素（施設等）	面積または数量	主な仕様・材質等	備考（維持管理上の特記事項等）
(1) 舗装 イ. 歩道部 ロ. 車道部	約 1,800㎡ 約 900㎡	・インターロッキングブロック（一部陶板使用） ・半剛性舗装ブラスト仕上げ（カラー骨材使用）	
(2) 照明 イ. 歩行者用 ロ. 自動車用	15基程度 H≒ 3.0m 2基 H≒ 15.0m	・鋼管支柱及びH鋼アーチ焼付塗装、球型街灯付 ・照度 30ルクス ・鉄骨造 石材打ち込みプレキャストコンクリート ・照度 30ルクス	・焼付塗装によりメンテナンスを軽減 ・メンテナンスフリー
(3) ドーム	1基 S≒ 240㎡ H≒ 16.5 m	・鋼材でシルエット状に組み立てる。 ・屋根 強化ガラス又はポリカーボネート	・アクリル樹脂現場焼付塗装により、メンテナンスを軽減する
(4) 植栽 イ. 列植 ロ. 植栽帯	20本程度 約 350㎡	・ヒバ等を用い、フランス庭園のサイプレスのような円錐列植とする。 ・樹種未定	
(5) その他 イ. 駅前総合案内サイン	1基	・駅勢圏の道路・公共施設等の案内板および駅広内レイアウト案内板 ・照明については、サイン設置箇所の明るさにより必要の有無を検討する。 ・仕様・表示内容等については、別途検討する。	・平成2年度調査「港北ニュータウンサイン計画」の最終関係課長会（平2.10.18）において、当該サインについては設置場所が道路用地である場合、道路付属物として取り扱うことが確認されている。

②. 道路占用物

構成要素（施設等）	面積または数量	主な仕様・材質等	備考（維持管理上の特記事項等）
(1) シェルター イ. バスシェルター （照明付） ロ. タクシー シェルター ハ. 回廊 （ドーム駅舎間）	1基 L≒24m H≒3.7m W≒4～6m 1基 L≒18m H≒3.7m W≒4～6m H≒3.7m W≒4～7m L≒12.0m	・前項の回廊と同じデザイン、仕様 ・ベンチを付設 ・同上 ・同上	・市交通局が占用（公団が設置して移管） ・規格、仕様等について交通局と調整中 ・公団から市へ移管 ・タクシー協会が使用、維持管理 ・市交通局が占用（公団が設置して移管） ・規格、仕様等について交通局と調整中 ・鉄道用地上（L≒4.0m）をどのように扱うか
(3) 公衆トイレ	1棟 敷地9m×7m	・デザインについては今後調整	・市環境事業局が占用、設置 ・4年度：供給処理施設工事（公団）、上物設計 ・5年度：上物工事
(4) 公衆電話ボックス	3基	・デザインについては今後調整 ・1基は身障者用	・NTTが占用、設置
(5) バス運行管理用受信 施設	2基	・市交通局の既存タイプを設置 ・位置は調整中 ・色彩については今後調整	・市交通局が占用、設置
(6) 彫刻	1体		・市交通局が占用、設置

(2) 大熊駅前広場

① 道路本体・付属物

構成要素（施設等）	面積または数量	主な仕様・材質等	備考（維持管理上の特記事項等）
(1) 舗装 イ. 歩道部 ロ. 車道部	約 3,400㎡ 約 1,800㎡	<ul style="list-style-type: none"> 6m×6mのグリッドパターン インターロッキングブロック 半剛性舗装ブラスト仕上げ（カラー骨材混入） 	
(2) 照明 イ. 歩行者用 ロ. 自動車用 ハ. 高架下	16基程度 H≒3.4m 2基 H≒10.0m 1基 ・ダウンライト16個 ・間接照明スポットライト 8個	<ul style="list-style-type: none"> 支柱 石材打ち込みプレキャストコンクリート ステンレspanチングメタル間接及び直接照明 照度 30ルクス 支柱 アルミポール リング等 アルミ又はステンレス一部焼付塗装 照度 30ルクス 星座を浮かび上がらせるライトアップ型 照度 30ルクス 星座部 鋼板皿型加工エナメル仕上げ 周辺部 アルミスパンドレル又はアルミ板加工（交通局施工） 	<ul style="list-style-type: none"> RC造石貼により、メンテナンスフリー アルミ（ステンレス）下地なのでメンテナンスフリー 鉄道高架下の天井用アンカーボルトを使用して桁に共架 共架については交通局の了解済 他の高架下については自立式の街路照明で対応
(3) 修景物 イ. 霧噴水	1基 本体直径≒3.0m 周囲水受け W≒0.2m H≒0.1～0.15m	<ul style="list-style-type: none"> RC造の山形躯体に素焼きタイル層状貼り 加湿用ノズルにより霧噴霧（タイマー式） 受水タンク 50ℓ 給水タンク 	<ul style="list-style-type: none"> 水道使用量 16ℓ/h × 5h/日 = 80ℓ/日 電気使用量 1550w × 5h = 7.8kwh/日 年間のメンテナンス……水は少量で使い捨て。循環させないのでメンテナンスが容易 メンテナンスコスト 約30万円/年・4回 <ul style="list-style-type: none"> 水道料 24円/日 電気料 186円/日 部品交換 8万円/5年・回

構成要素（施設等）	面積または数量	主な仕様・材質等	備考（維持管理上の特記事項等）
(4) 植栽 イ. 植栽枿 ロ. 高木 ハ. 植栽帯	18基程度 40本程度 2ヵ所 約 600㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・4m×4m立上り ・天端RC造石貼り ・一部ベンチ化粧 ・樹種未定 ・同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道高架の両脇は高木により枿の腹部分を隠す。
(5) その他 イ. 駅前総合案内サイン	1基	<ul style="list-style-type: none"> ・駅勢圏の道路・公共施設等の案内板および駅広内レイアウト案内板 ・照明については、サイン設置箇所の明るさにより必要の有無を検討する。 ・仕様・表示内容等については、別途検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成2年度調査「港北ニュータウンサイン計画」の最終関係課長会（平2.10.18）において、当該サインについては設置場所が道路用地である場合、道路付属物として取り扱うことが確認されている。

② 道路占用物

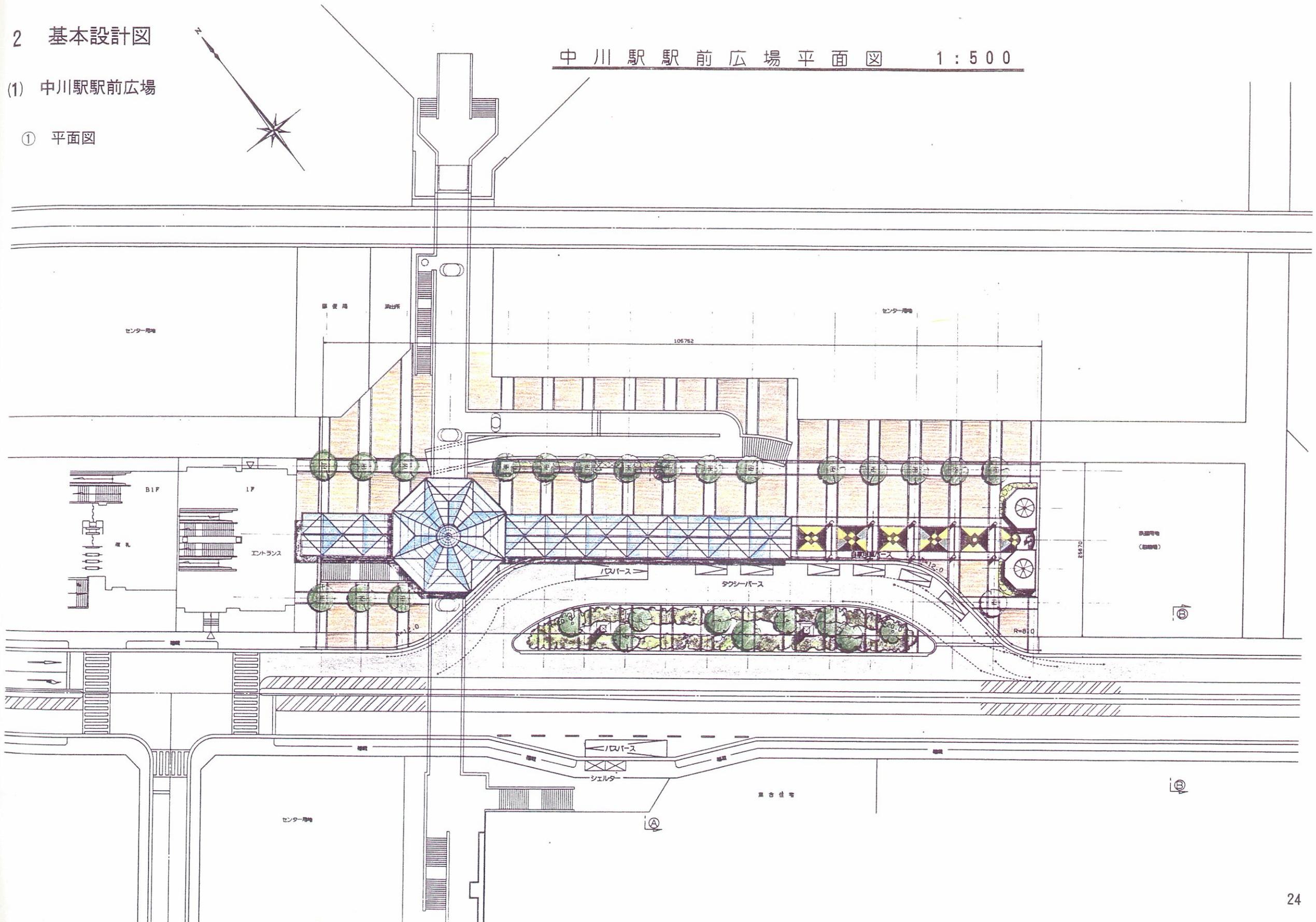
構成要素（施設等）	面積または数量	主な仕様・材質等	備考（維持管理上の特記事項等）
(1) バスシェルター （照明付）	3基 H≒3.9m W≒3.8m+庇0.9m L≒24m、18m、9m	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱 石材打ち込みプレキャストコンクリート ・屋根 ステンレス焼付塗装 乗降口ステンレス製庇 天井部 鋼板加工エナメル仕上げの星座 ・ベンチを付設 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスフリー ・市交通局が占用（公団が設置して移管） ・企画、仕様等について交通局と調整
(2) タクシーシェルター （照明付）	1基 H≒3.9m W≒3.8m L≒9m	<ul style="list-style-type: none"> ・バスシェルターに準じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公団から市へ移管 ・タクシー協会が使用、維持管理
(3) 公衆トイレ	1棟 敷地9m×7m	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインについては今後調整 ・男・女及び身障者用 	<ul style="list-style-type: none"> ・市環境事業局が占用、設置 ・4年度：供給処理施設工事（公団）、上物設計 ・5年度：上物工事
(4) 公衆電話ボックス	3基×2ヵ所	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインについては今後調整 ・1基は身障者用 	<ul style="list-style-type: none"> ・NTTが占用、設置（都計ペデ上）
(5) バス運行管理用受信施設	2基	<ul style="list-style-type: none"> ・市交通局の既存タイプを設置 ・位置は調整中 ・色彩については今後調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・市交通局が占用、設置
(6) 彫刻	2体		<ul style="list-style-type: none"> ・市交通局が占用（都計ペデ上もありうる）、設置

2 基本設計図

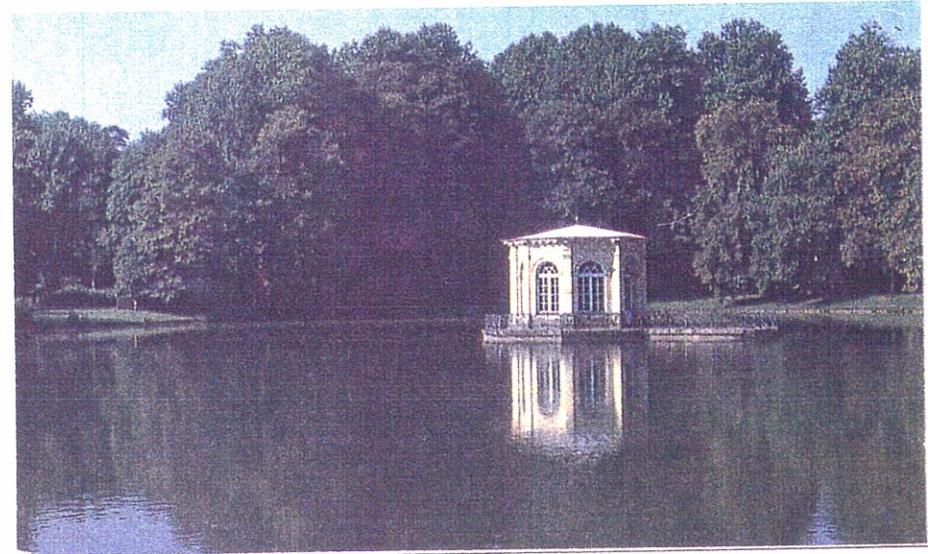
(1) 中川駅駅前広場

① 平面図

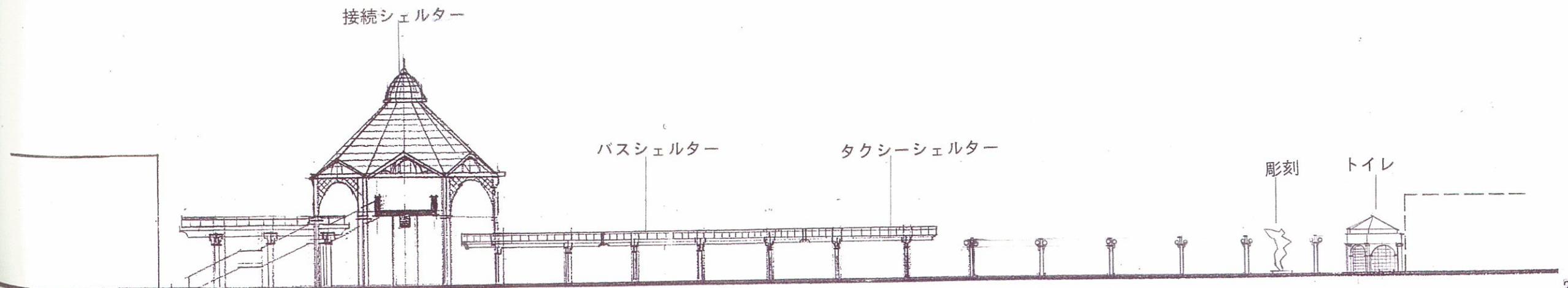
中川駅駅前広場平面図 1:500

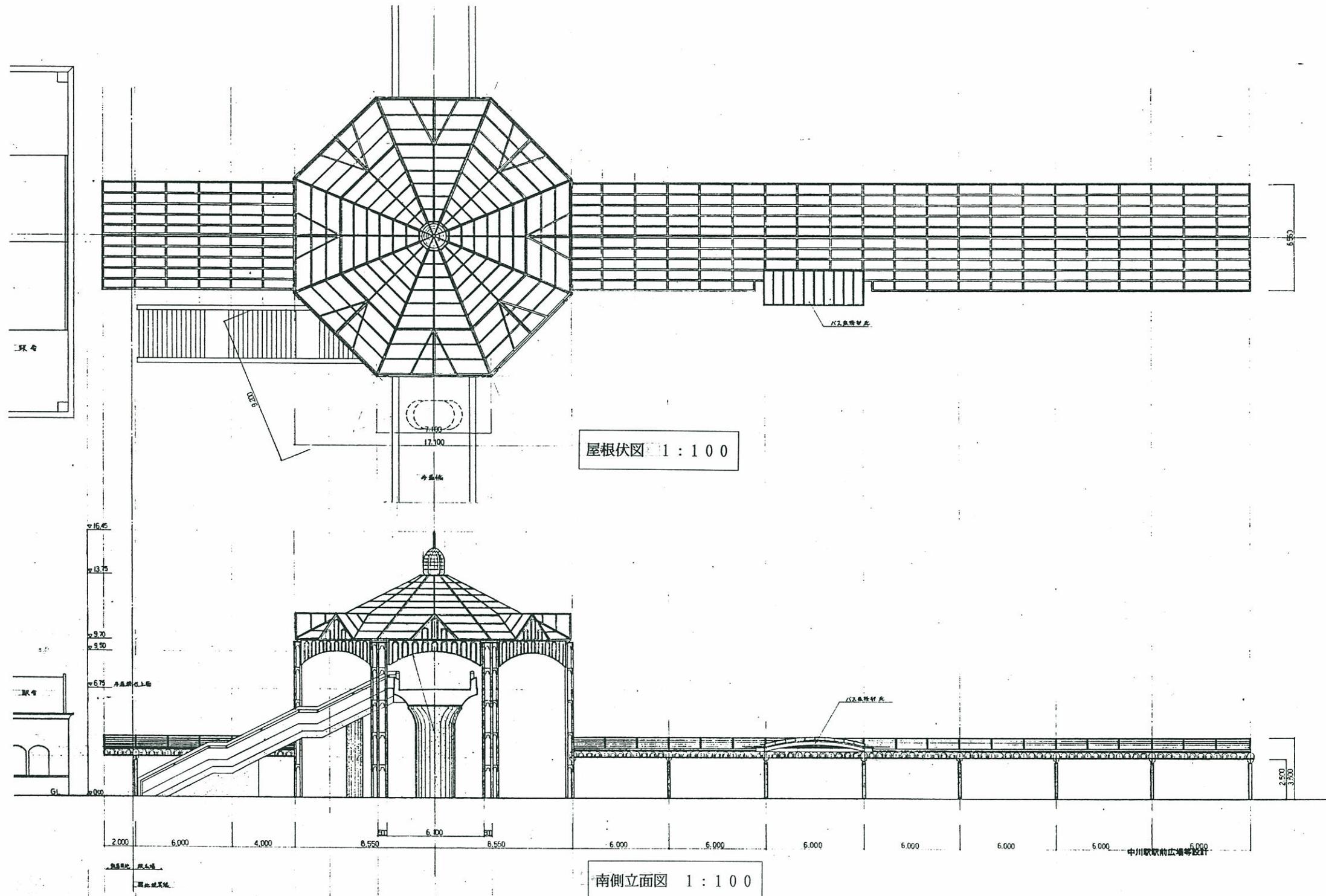


② ドーム基本設計図



フォンテンブローのエクセドラ



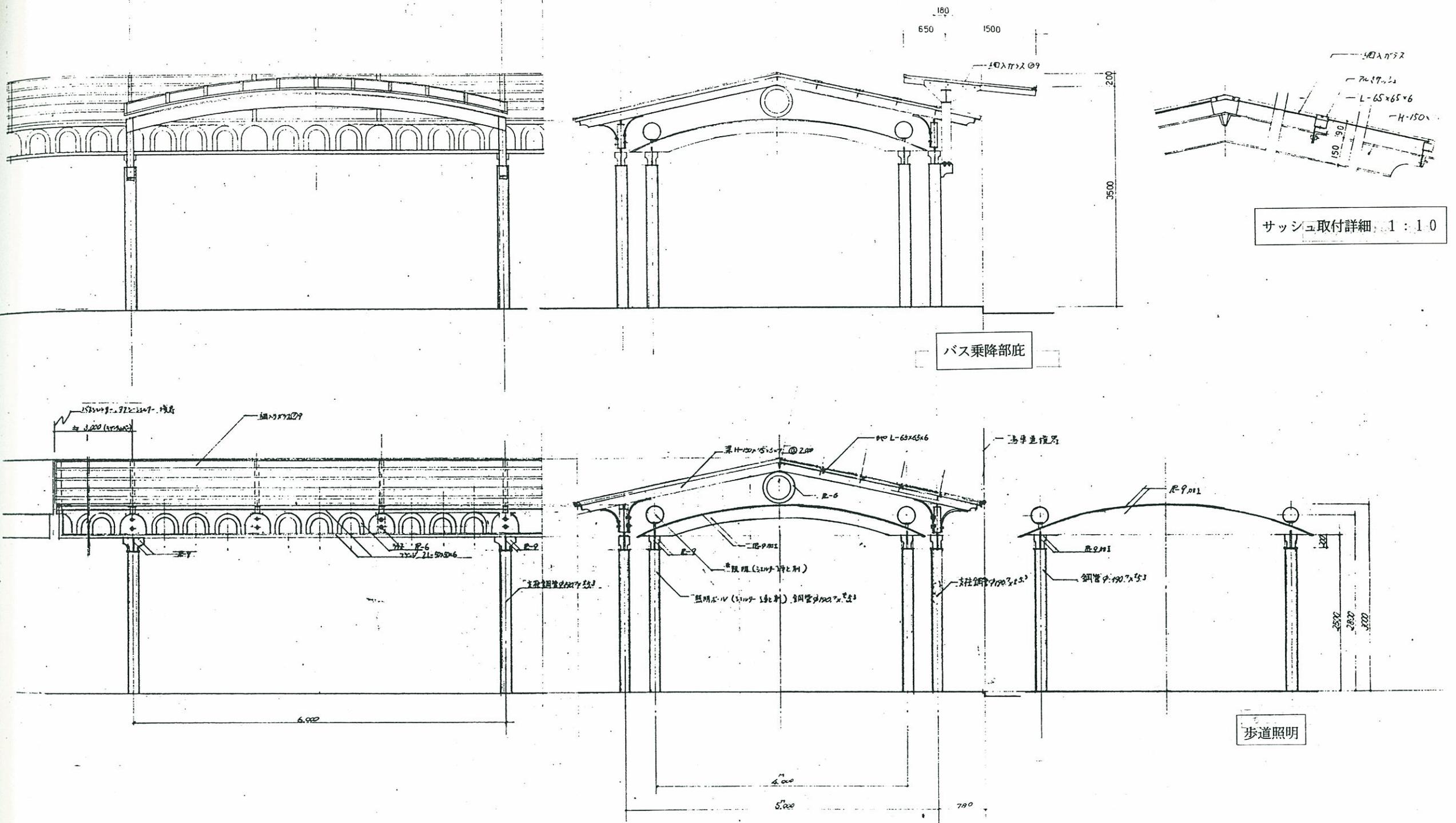


屋根伏図 1 : 1 0 0

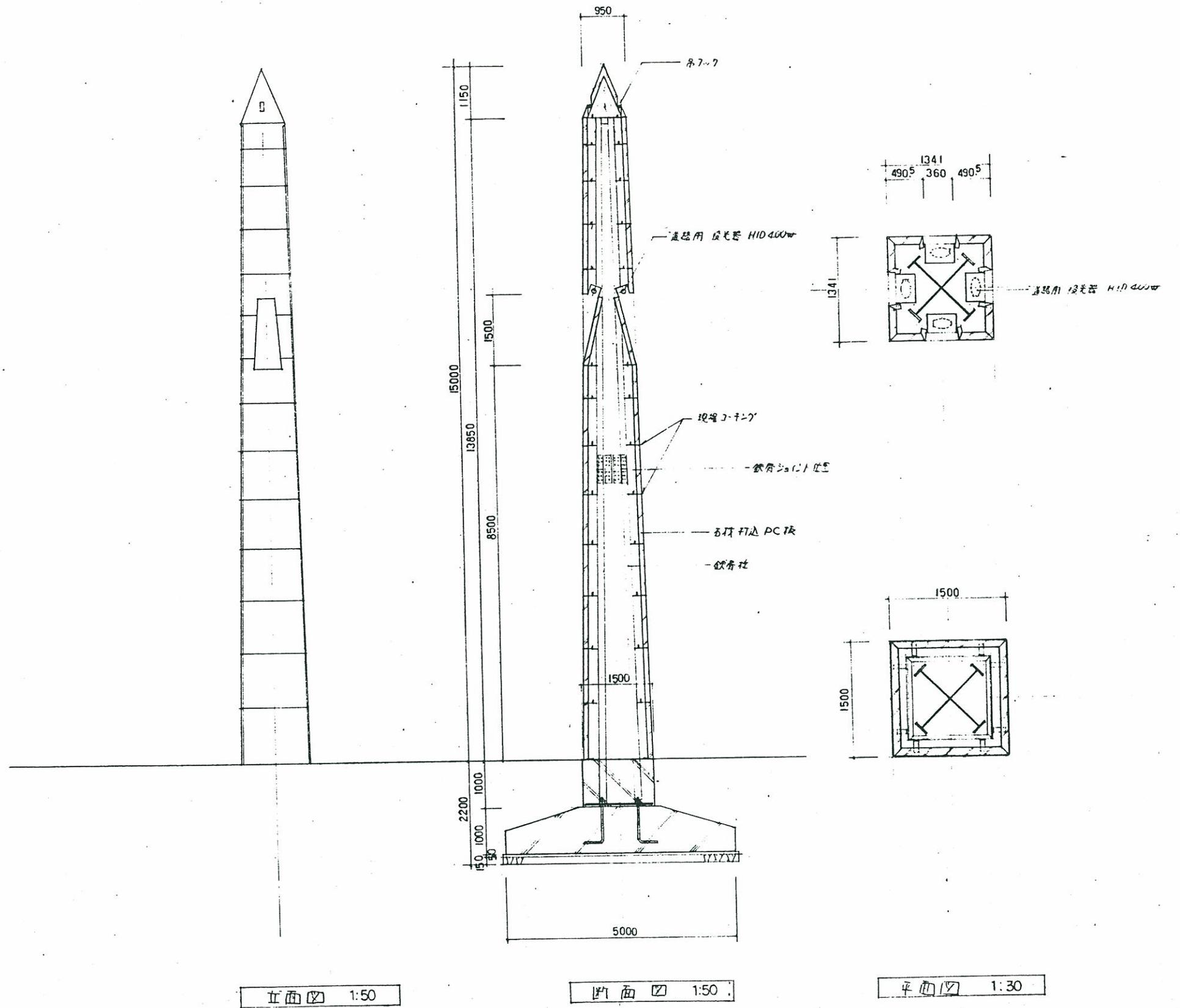
南侧立面图 1 : 1 0 0

中川駅前広場等設計

③ シェルター基本設計図



④ オベリスク基本設計図

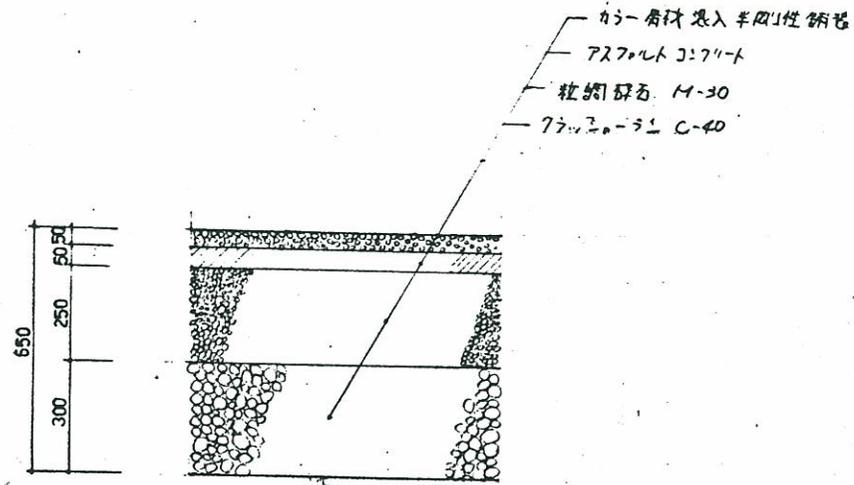


立図 1:50

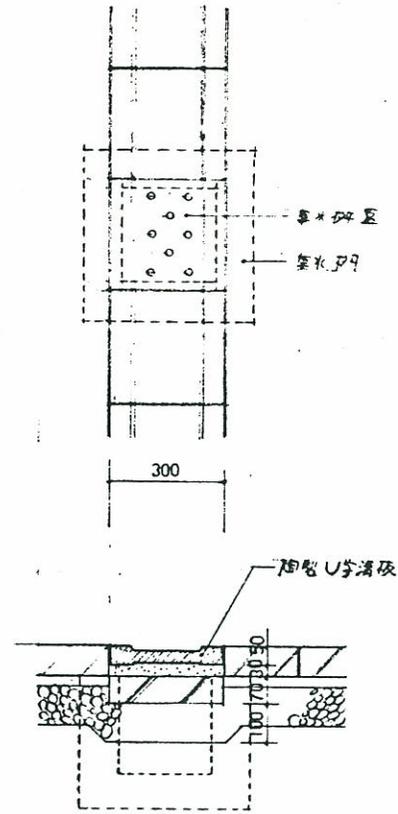
断面 1:50

平面 1:30

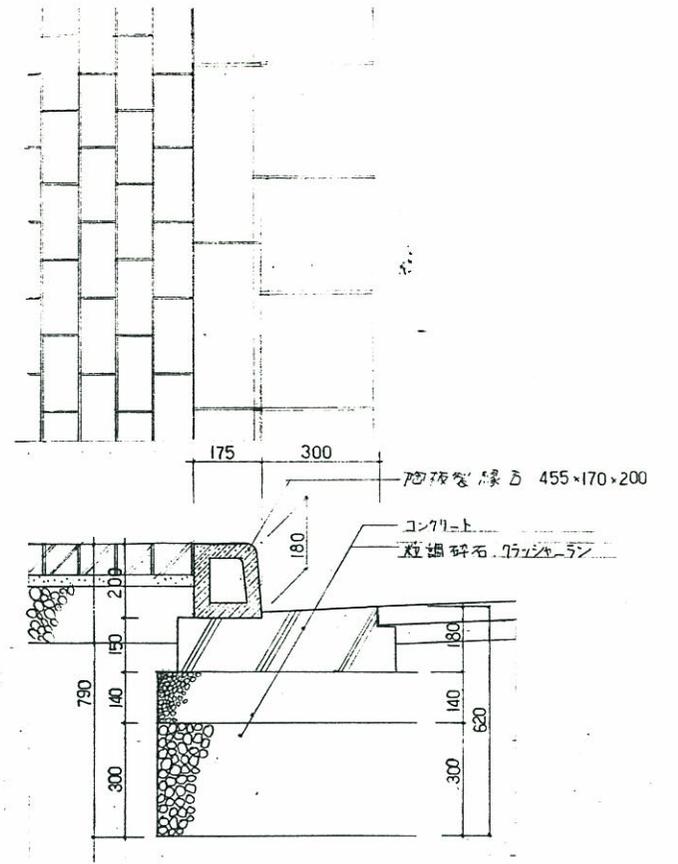
⑤ 舗装関係基本設計図



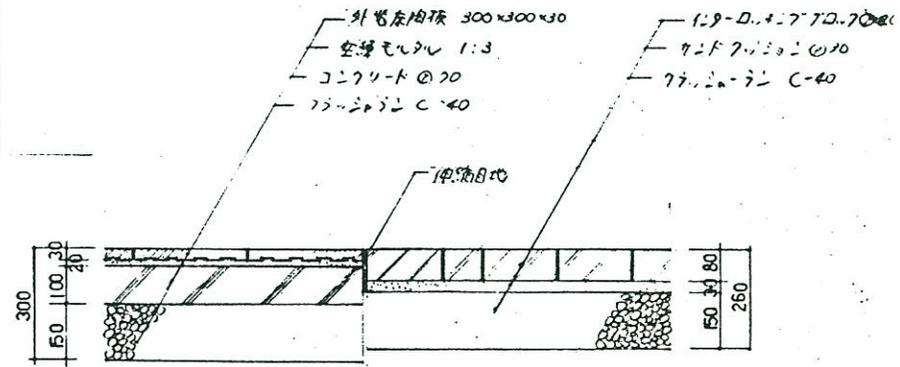
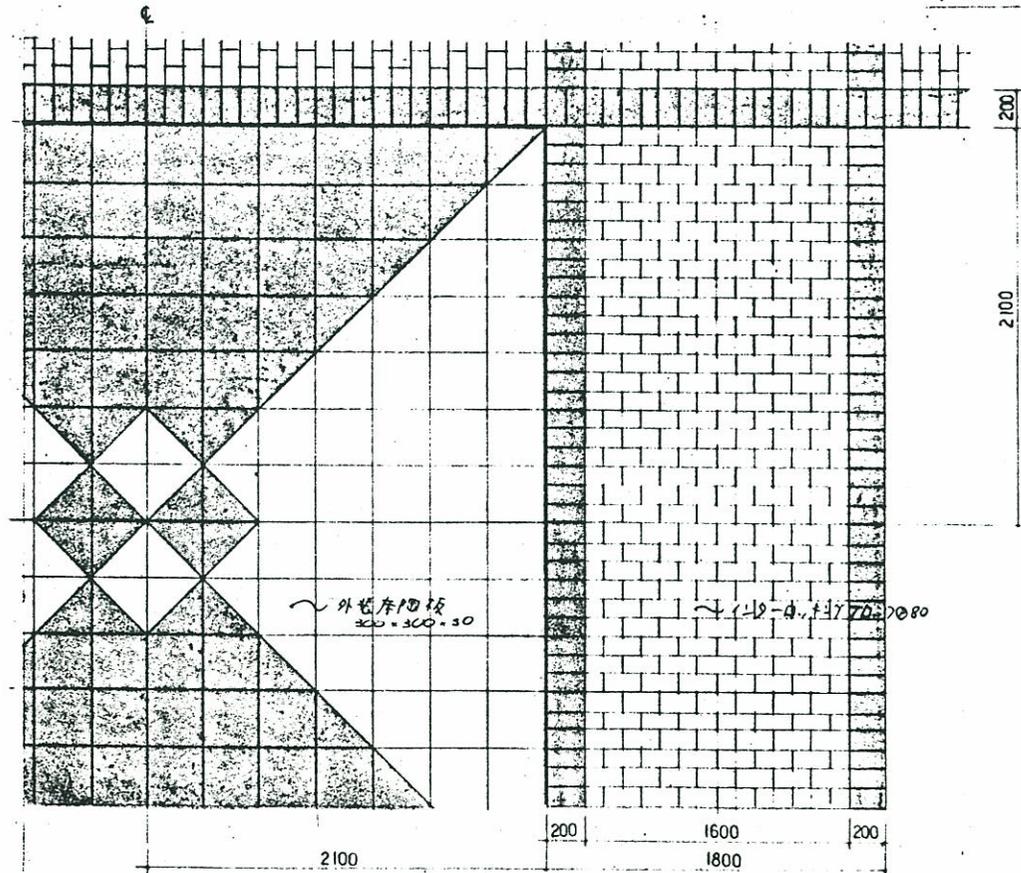
車道舗装



歩道内側溝

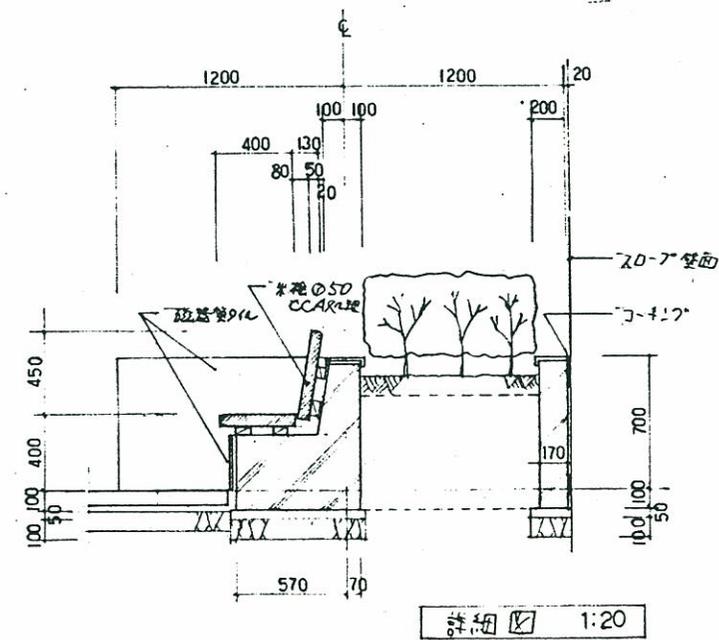
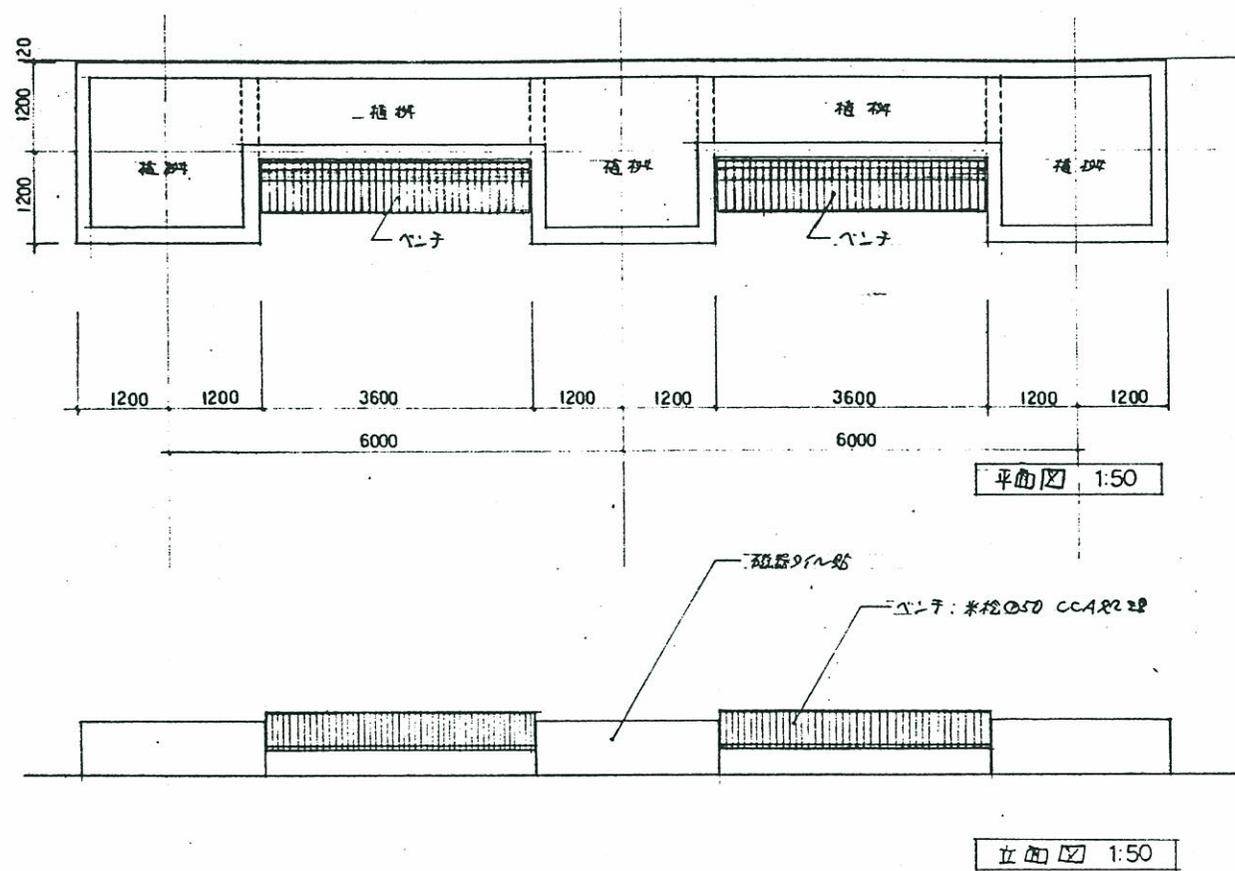


歩道境界・側溝

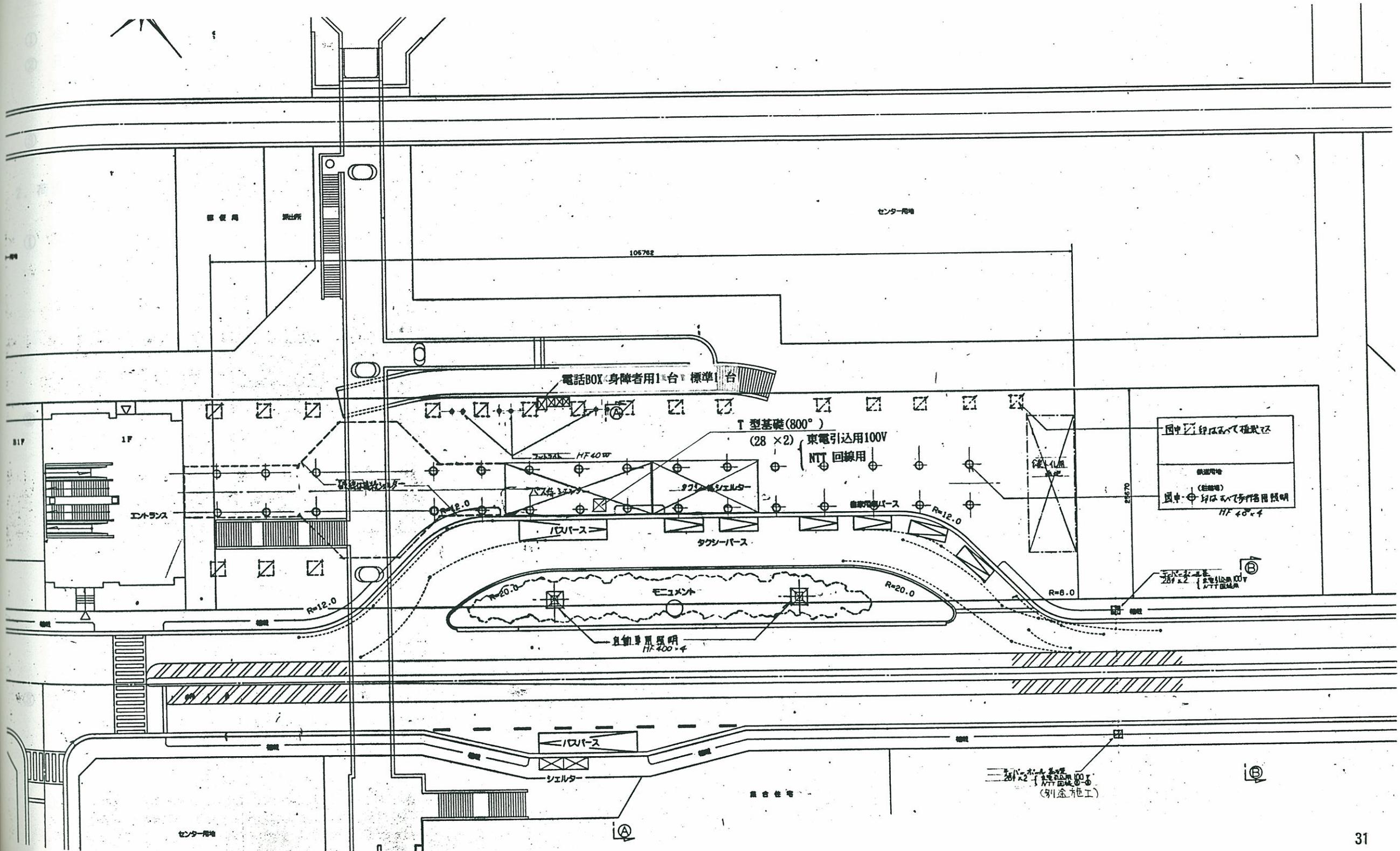


歩道舗装 (外装床陶板舗装)

⑥ 植樹ベンチ基本設計図



⑦ 設備計画基本設計図



⑧ 中川駅ドーム・シェルター荷重の検討

1. 基本方針

- ① 全体構造の安定性を確保するため、基礎としてBOX型の8角形地中梁を用いる。
- ② BOX梁は、内部空洞の鋼構造とし、これによって、排斥される土量の重量の範囲内に、上部構造の荷重がおさまるよう、地中梁の形状、及び上部構造の形状・仕上げを決定する。
- ③ したがって、あらかじめ与えられている許容積載荷重は、余裕とする。

2. 荷重チェック

① 排斥土量・荷重

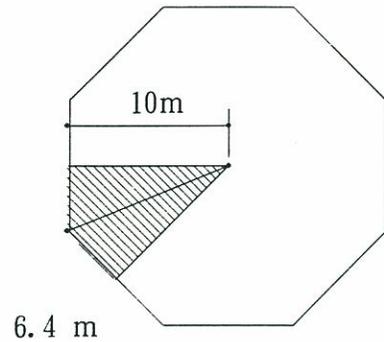
$$\begin{aligned} \text{排斥土量} & 1 \times 1 \times 6 = 6 \text{ m}^3 \\ \text{荷重} & 1.7(\text{ton/m}^3) \times 6(\text{m}^3) = 10.2 \\ & \rightarrow 10\text{ton} \end{aligned}$$

※ 交通局設計条件においては、土の単位重量 γ は

$\gamma = 1.6 \text{ t/m}^3$ (地下水位以上)
$\gamma = 2.0 \text{ t/m}^3$ (地下水位以下)

② 上部構造荷重

・柱1基当たりの構面積 (水平投影面積) …… $S = 6.4 \times 10 \times 1/2 = 32 \text{ m}^2$



・荷重	L. L	……	70kg/m^2
	D. L	仕上・補助材	…… 70kg/m^2
		主構造材	…… 70kg/m^2
		(地中梁を含む)	
		計	210kg/m^2

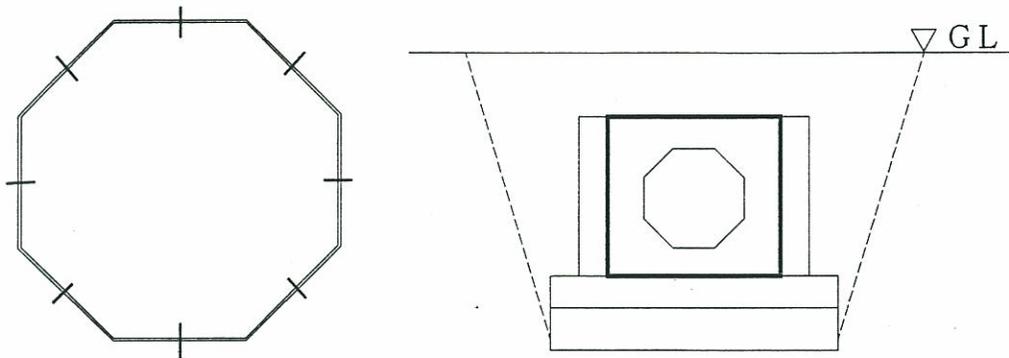
③ チェック

$$\begin{aligned} \text{柱1ヶ所当たりの軸力} &= 0.21\text{ton/m}^2 \times 32\text{m}^2 = 6.72 \\ &\rightarrow 7\text{ton} \\ &< 10\text{ton} \end{aligned}$$

よって、十分安全な設計が可能であると判断される。

STAGE I

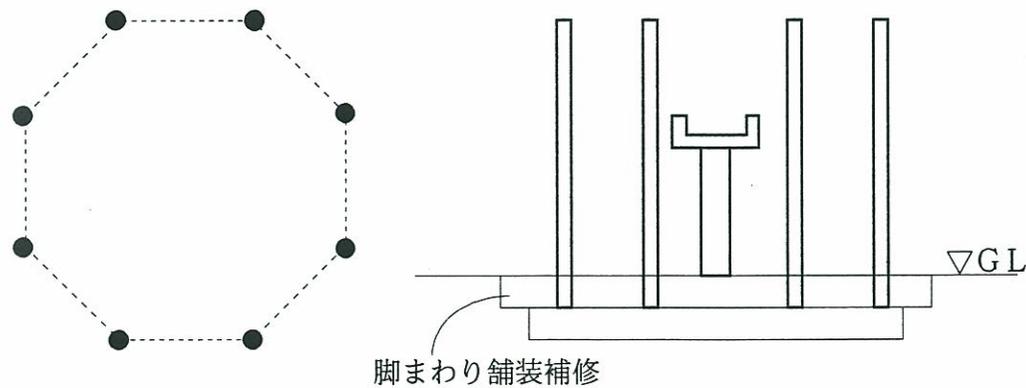
1. BOX型鋼製基礎梁据え付け
2. 保護コンクリート打設



■現場工事期間……根切り・床付け	5日
鉄骨据え付け	5日
仮枠及びコンクリート打設・仮枠取外し、整地	5日
	<u>15日</u>

STAGE II

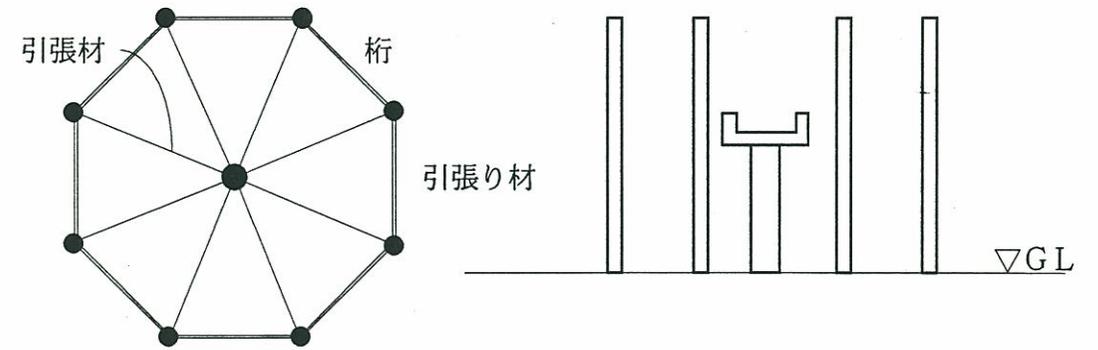
1. 柱脚建て込み (8カ所)
2. 脚まわり舗装補修 (8カ所)



■現場工事期間……建て方・本締切	5日
見回り舗装補修	2日
	<u>7日</u>

STAGE III

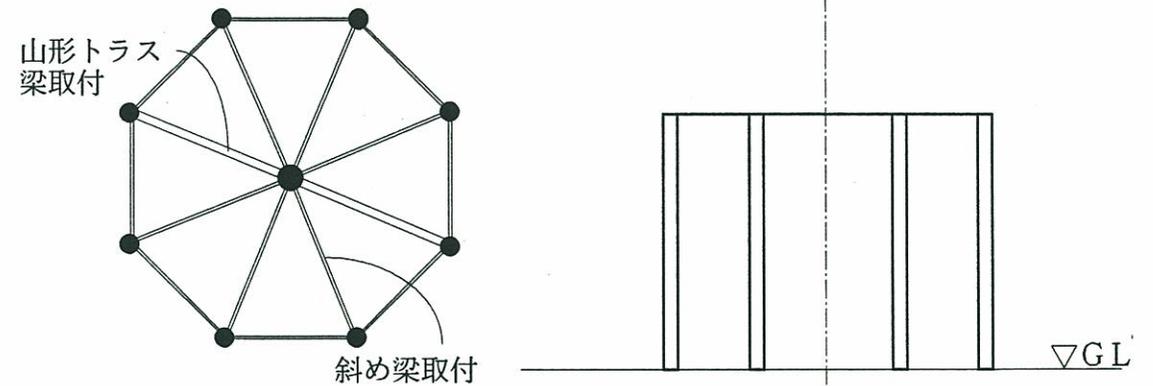
1. 桁取付 (8本)
2. 引張材取付



■現場工事期間……桁 取付	8日
引張材 取付け	2日
	<u>10日</u>

STAGE IV

1. 山形トラス梁取付 (1基)
2. 斜め梁取付 (6本)



■現場工事期間……	10日
-----------	-----

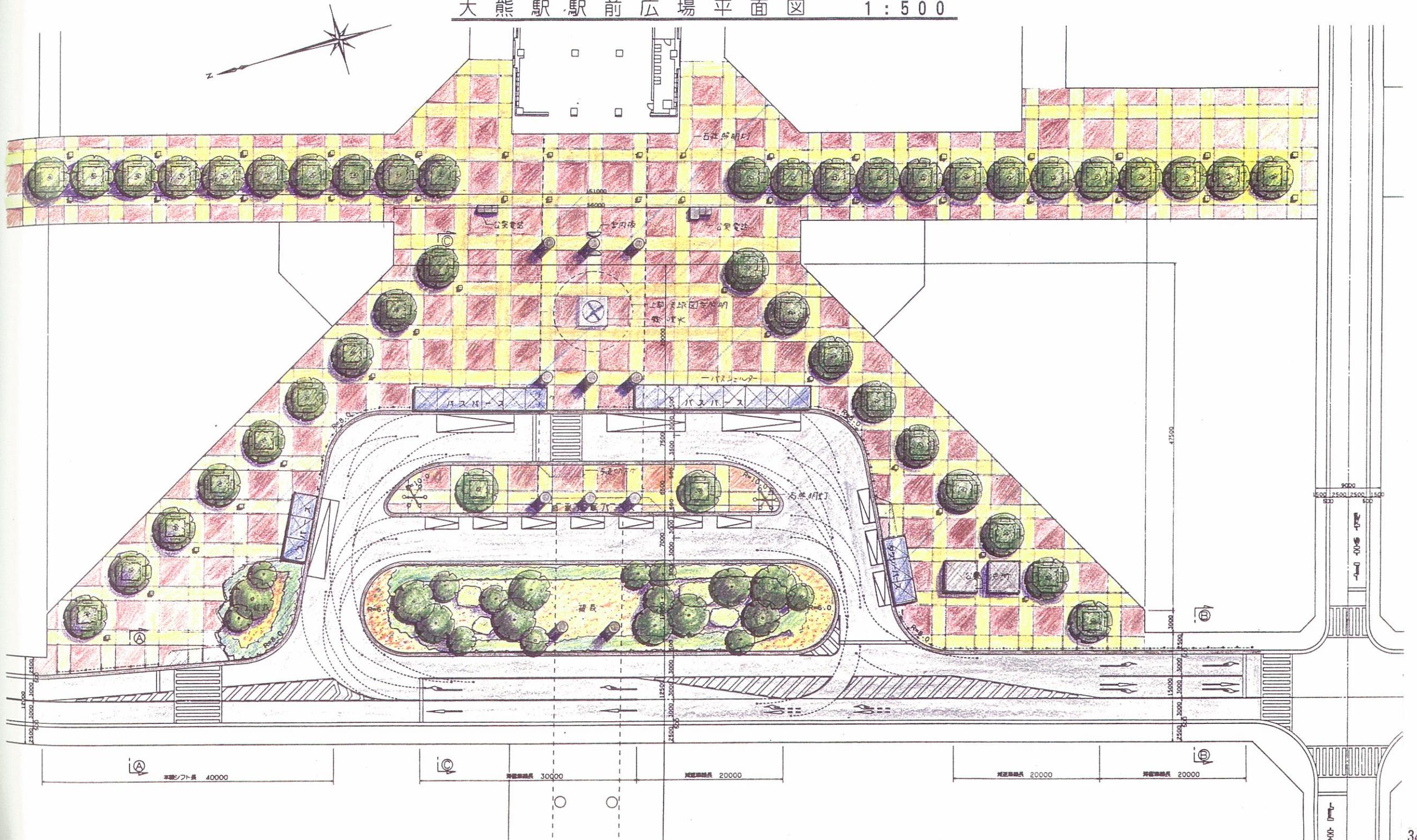
STAGE IV

1. 安全防護仮設…… 3日
 2. 補助部材取付…… 7日
 3. 仕上げ材取付…… 9日
 4. 補修・片付…… 6日
- 工事期間…… 25日

(2) 大熊駅駅前広場

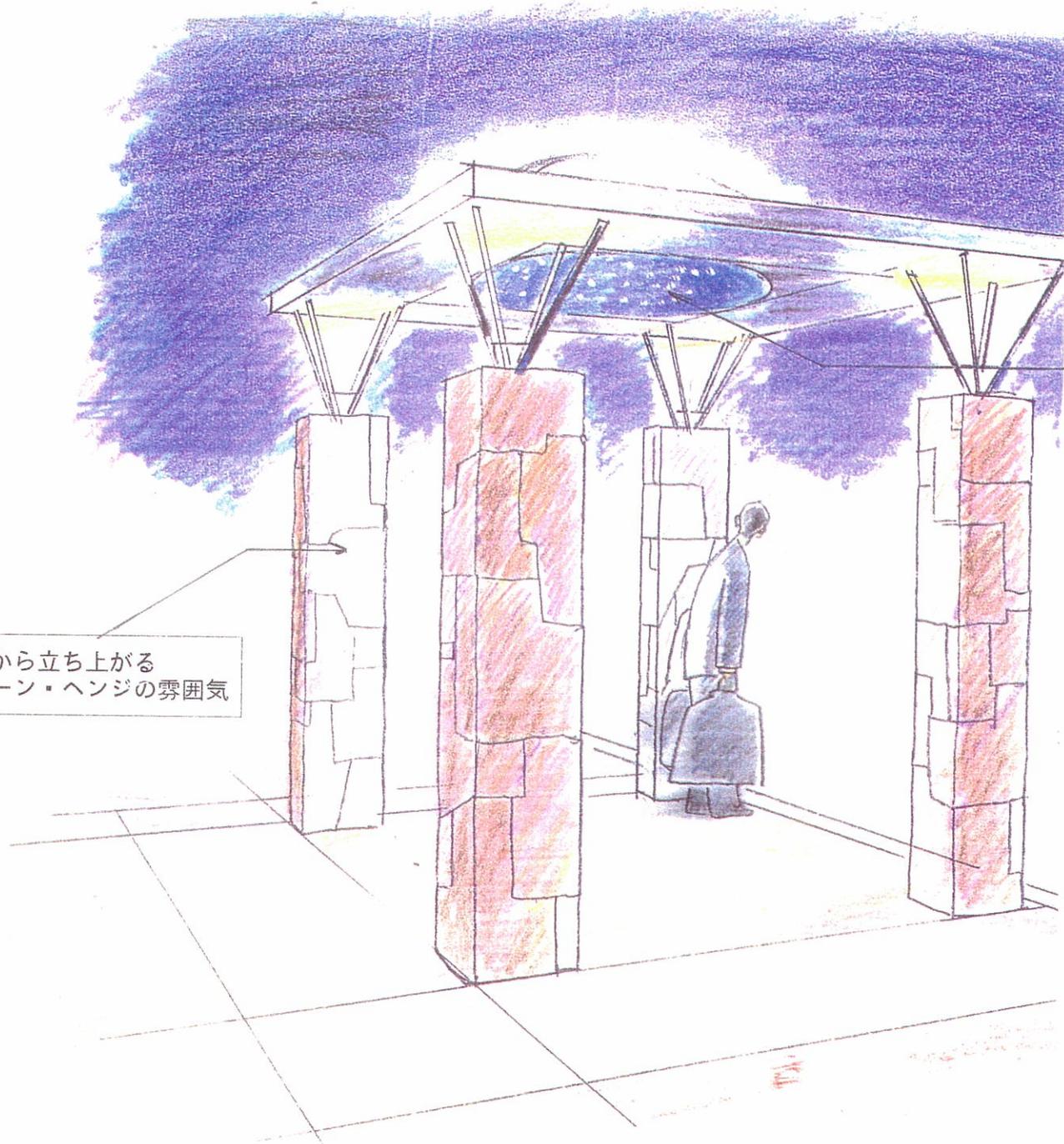
① 平面図

大熊駅駅前広場平面図 1:500



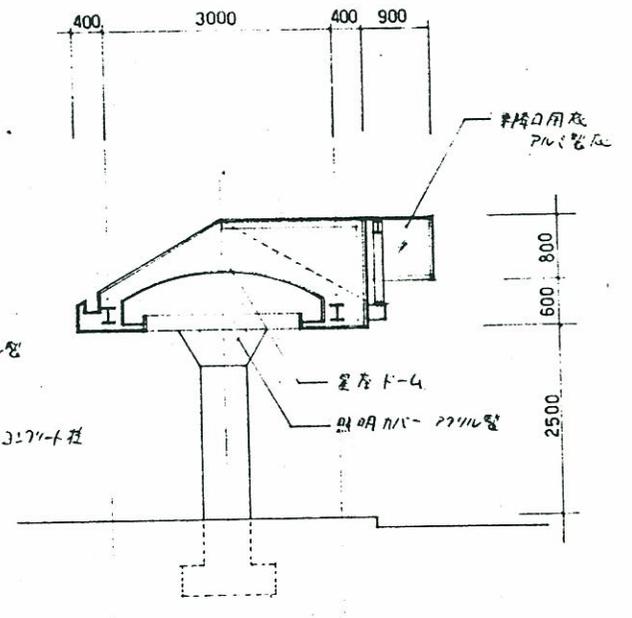
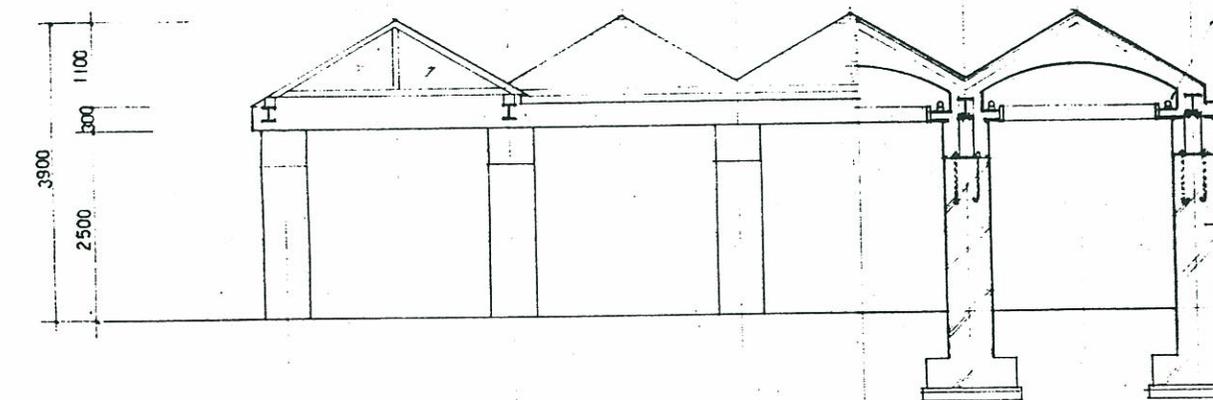
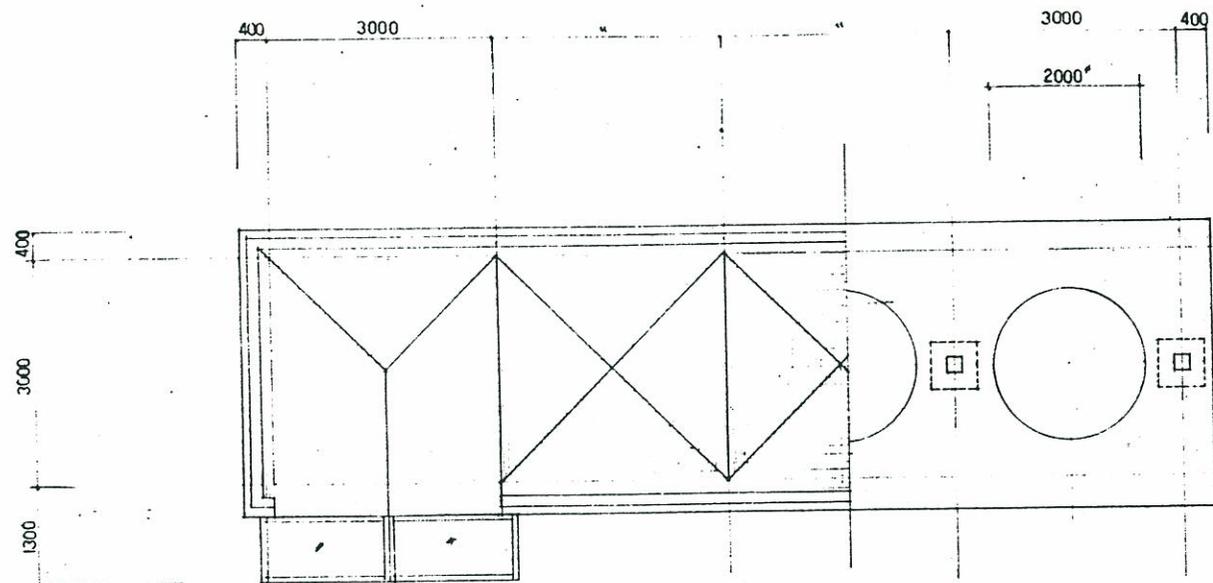
② シェルター基本設計図

鋼管支柱を石でくるみ、大地から立ち上がる
ソフスティケートされたストーン・ヘンジの雰囲気

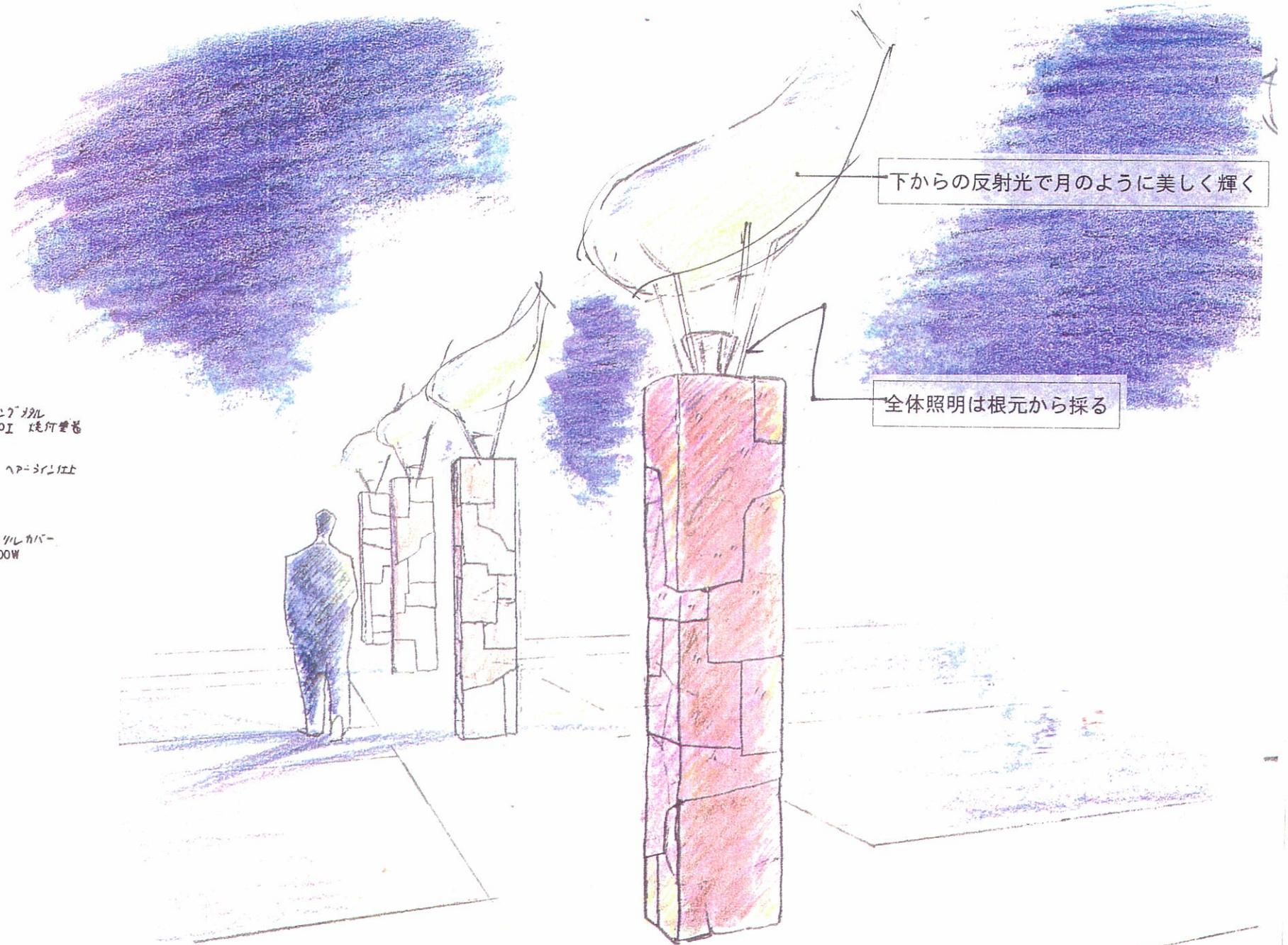
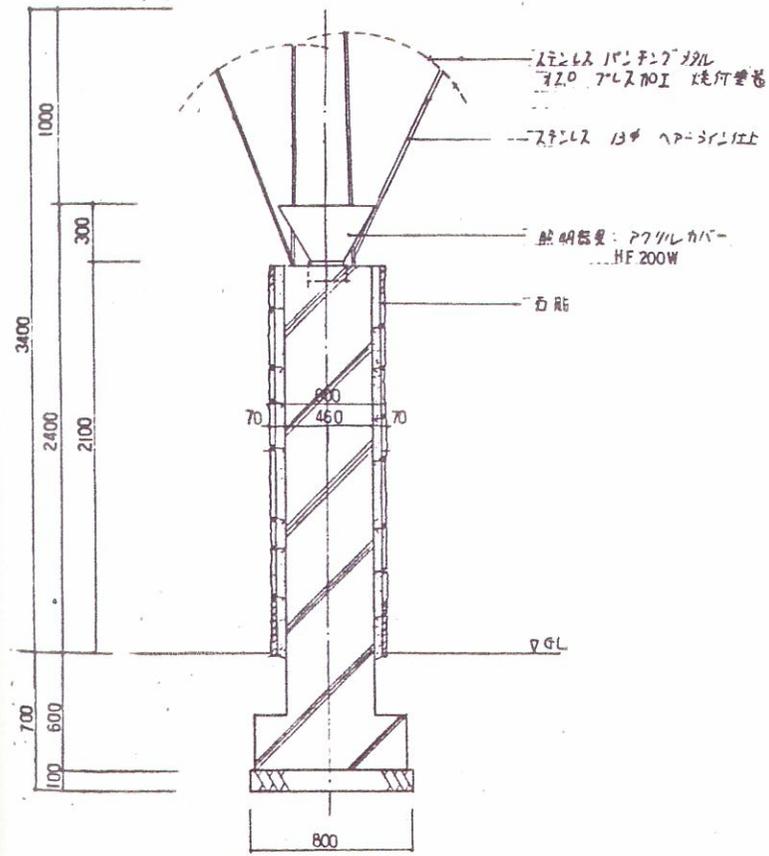


各天井に照明で星座を
浮かび上がらせる

色は宇宙の深い神秘的な青
「コスモブルー」



③ 石柱照明基本設計図

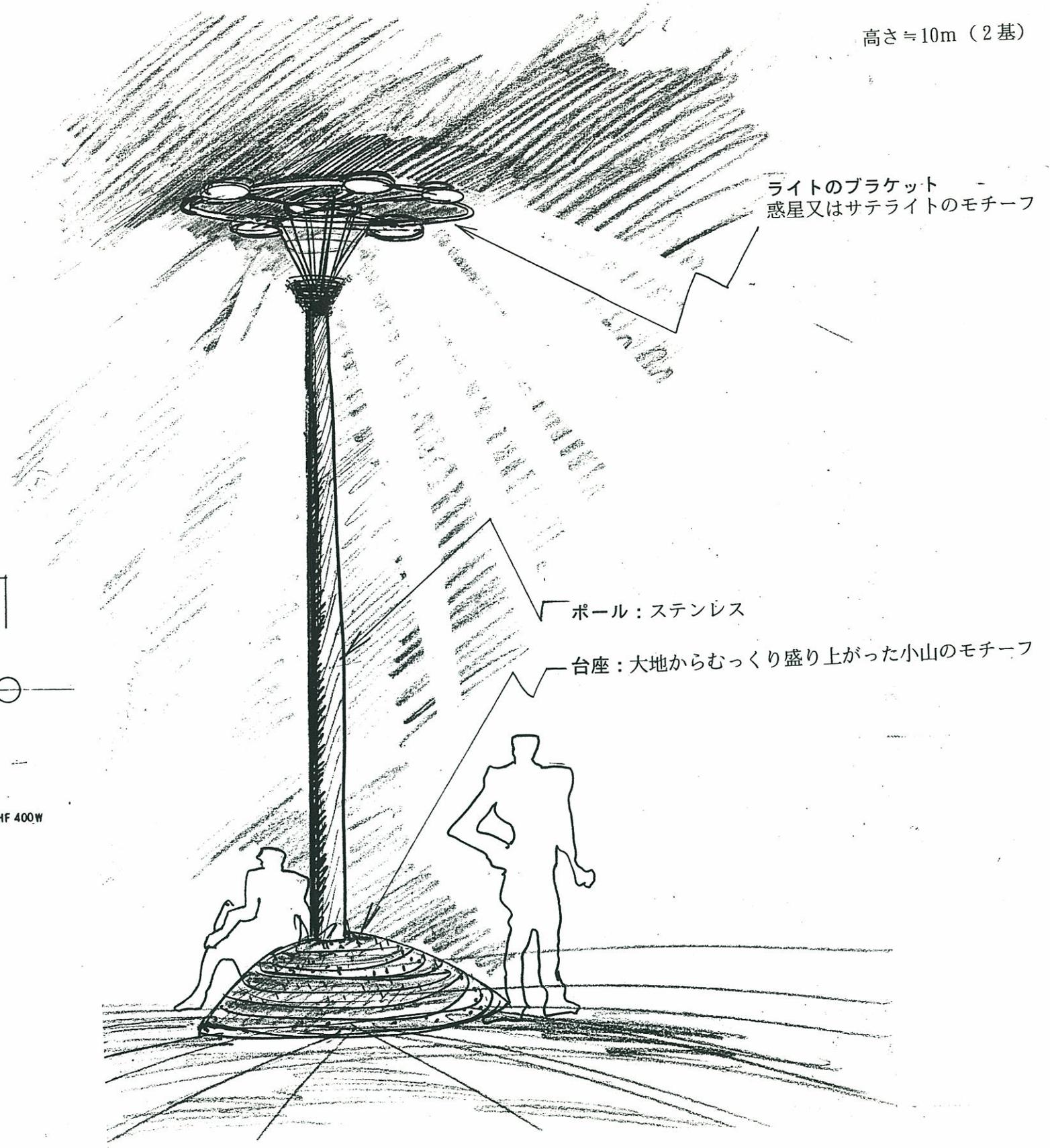
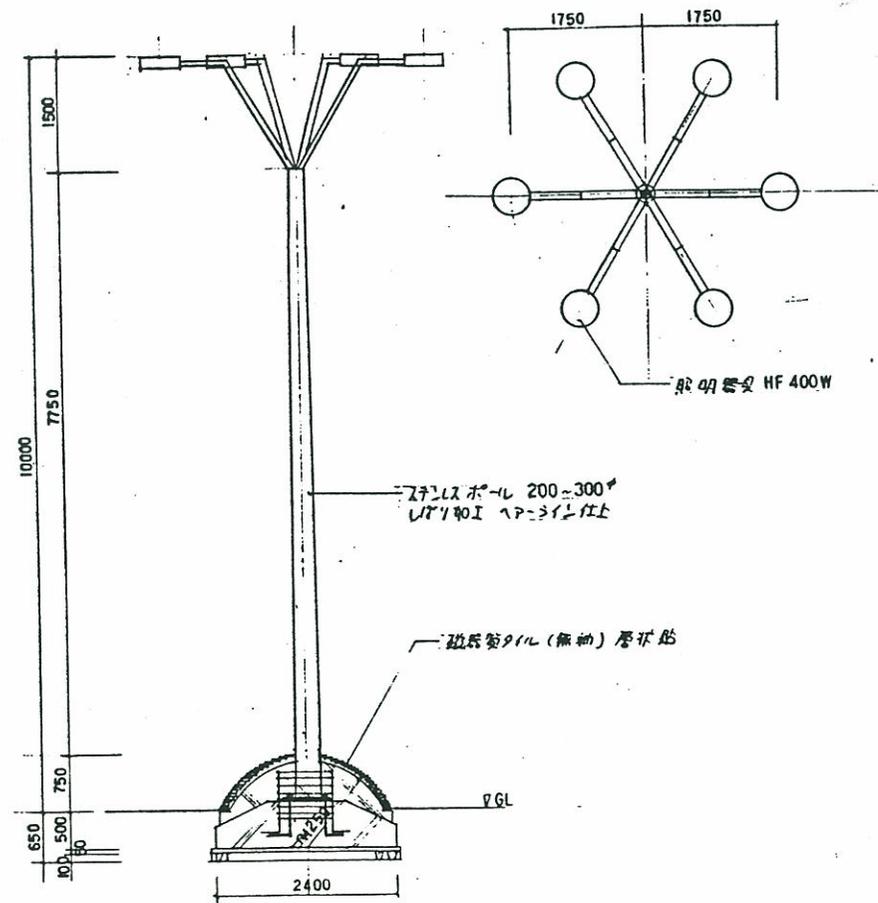


下からの反射光で月のように美しく輝く

全体照明は根元から採る

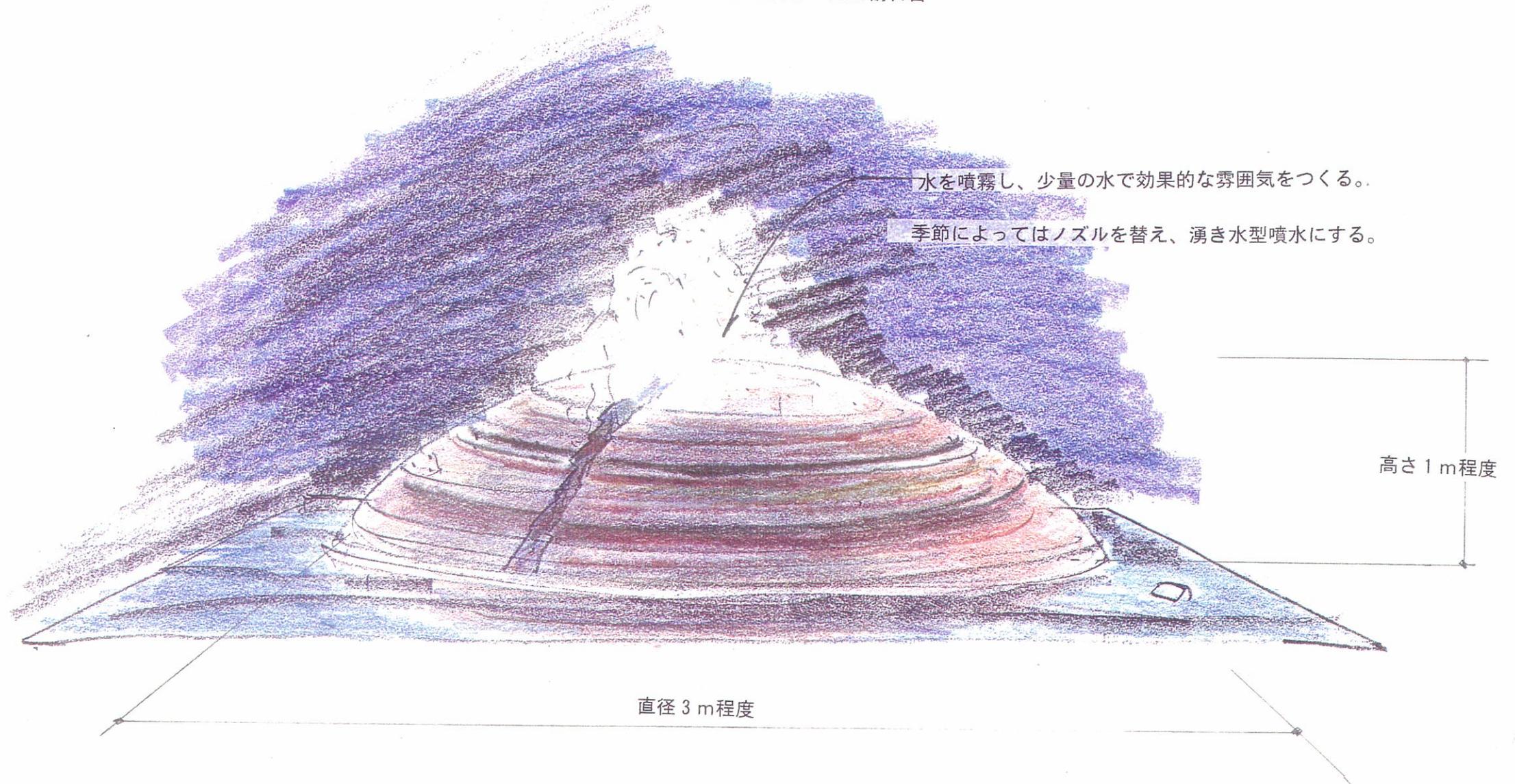
④ 自動車走行空間用全体照明基本設計図

高さ ≈ 10m (2基)



⑥ 霧噴水基本設計図

大地の層をモチーフにした円形の山と割れ目

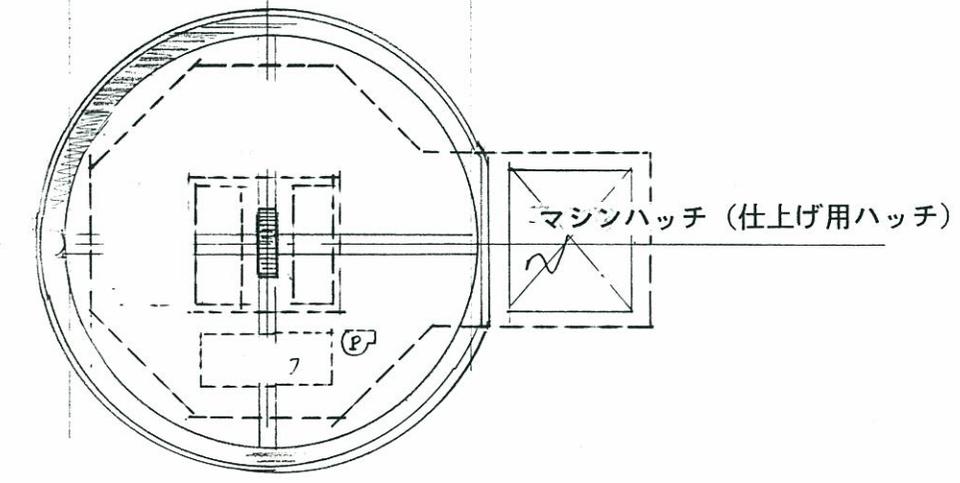
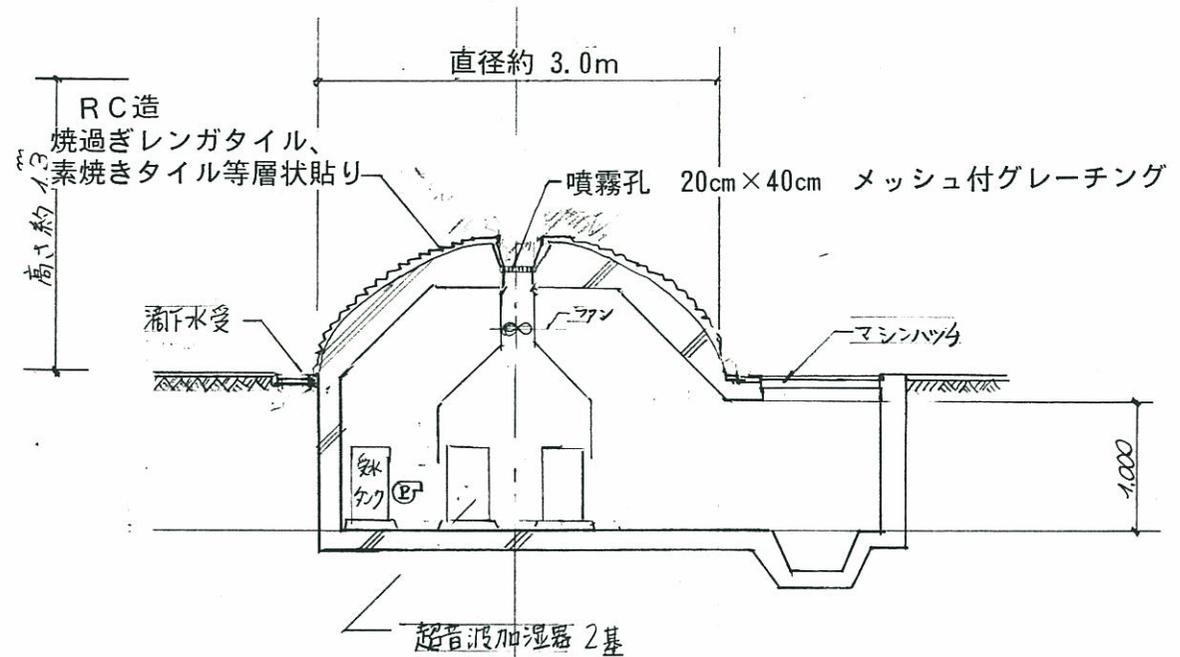


水を噴霧し、少量の水で効果的な雰囲気をつくる。

季節によってはノズルを替え、湧き水型噴水にする。

高さ 1 m 程度

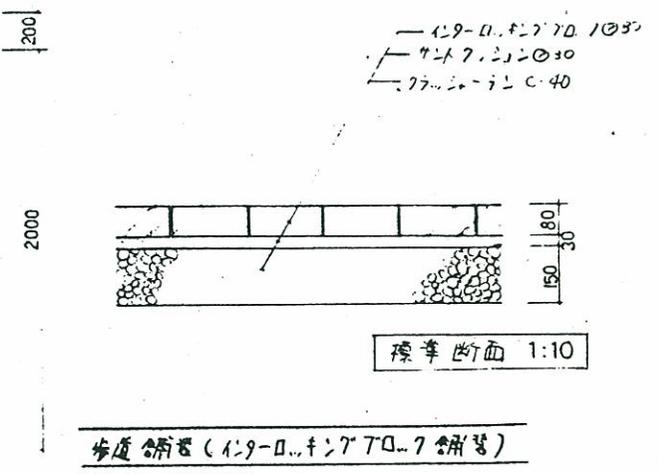
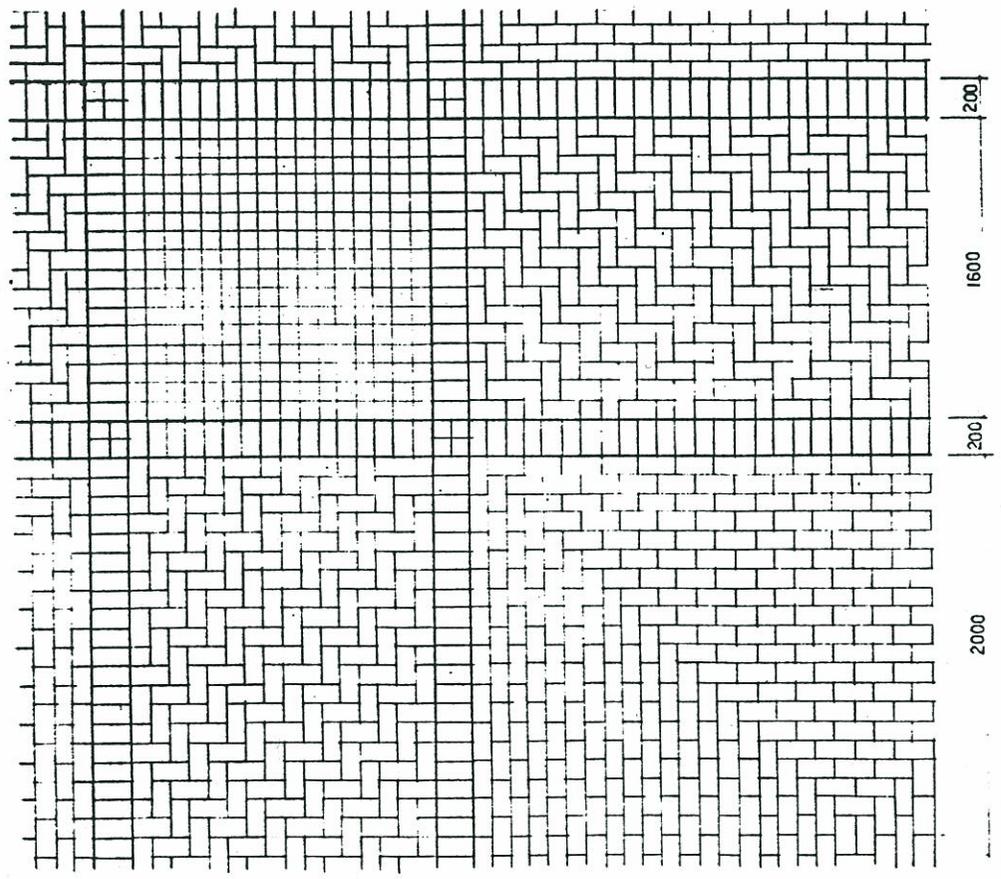
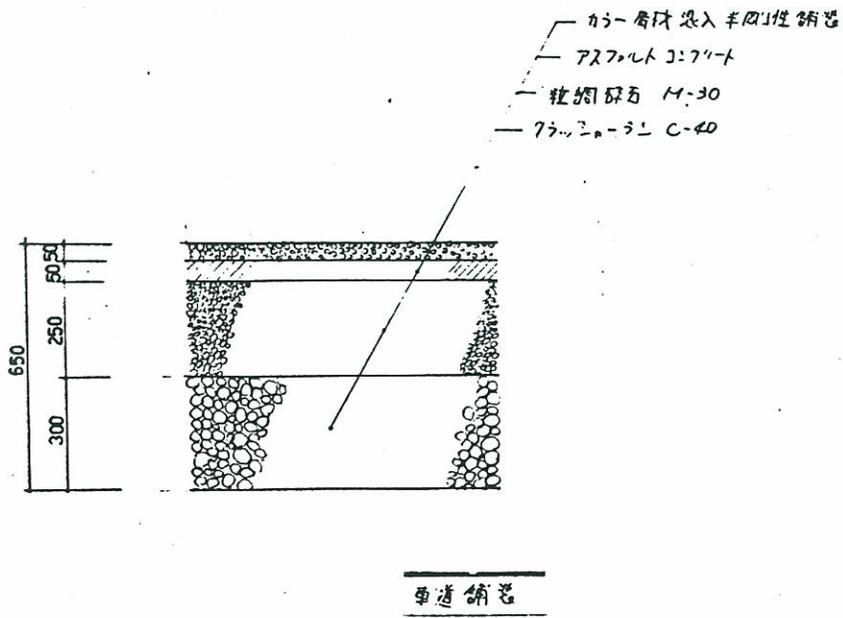
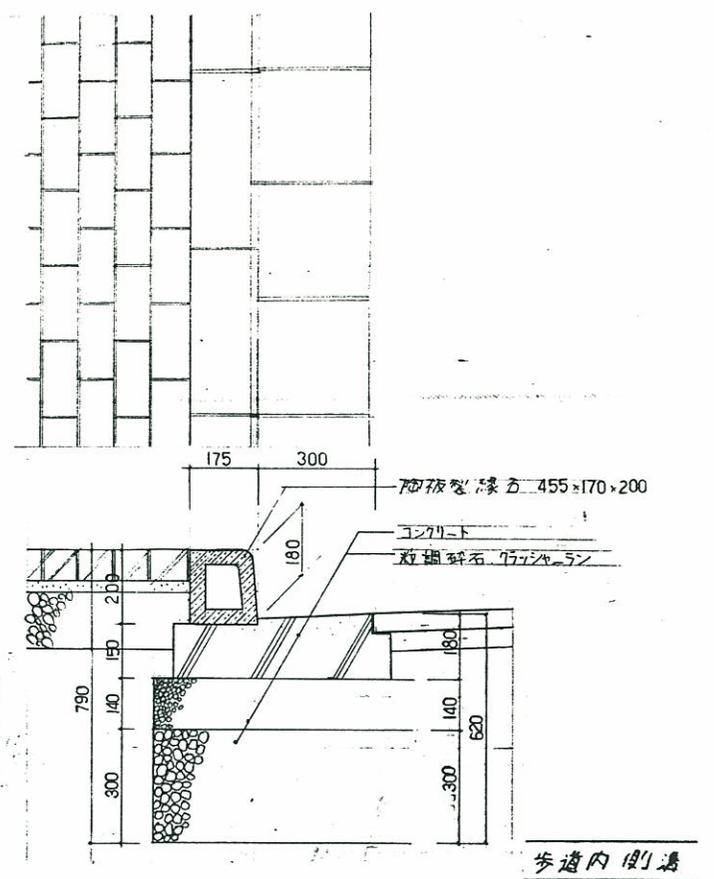
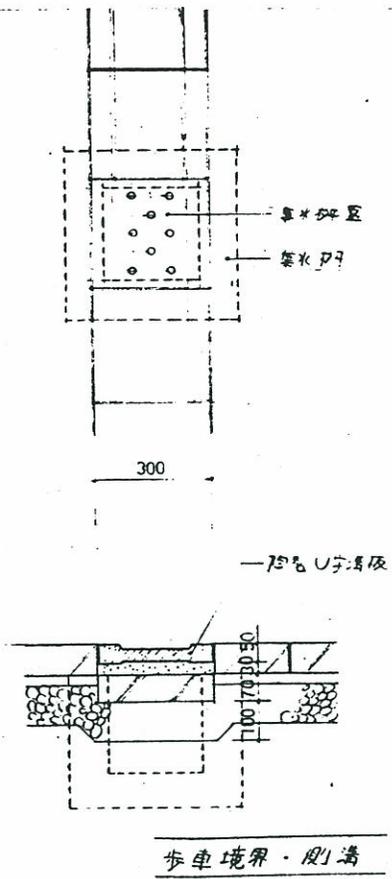
直径 3 m 程度

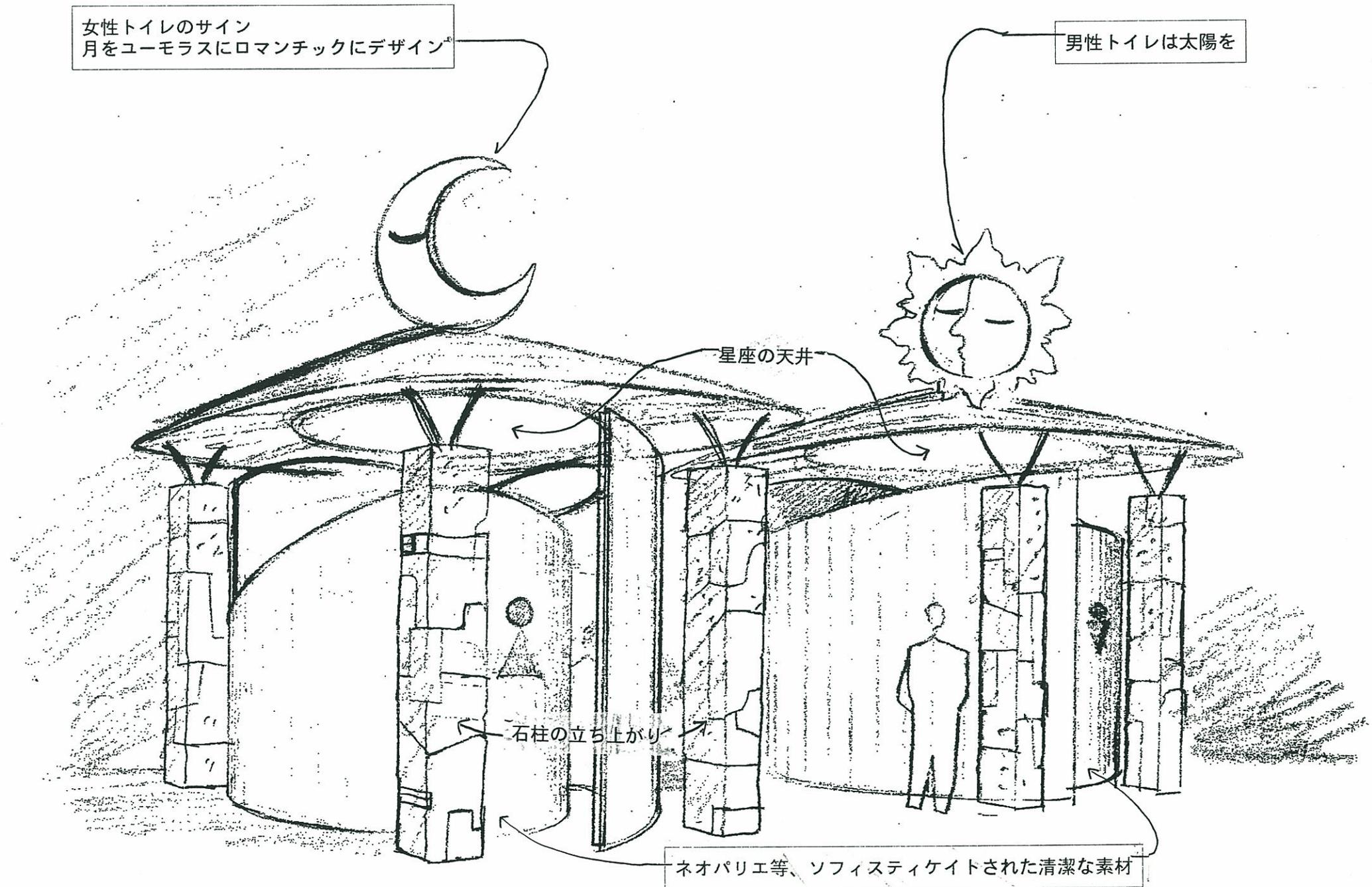


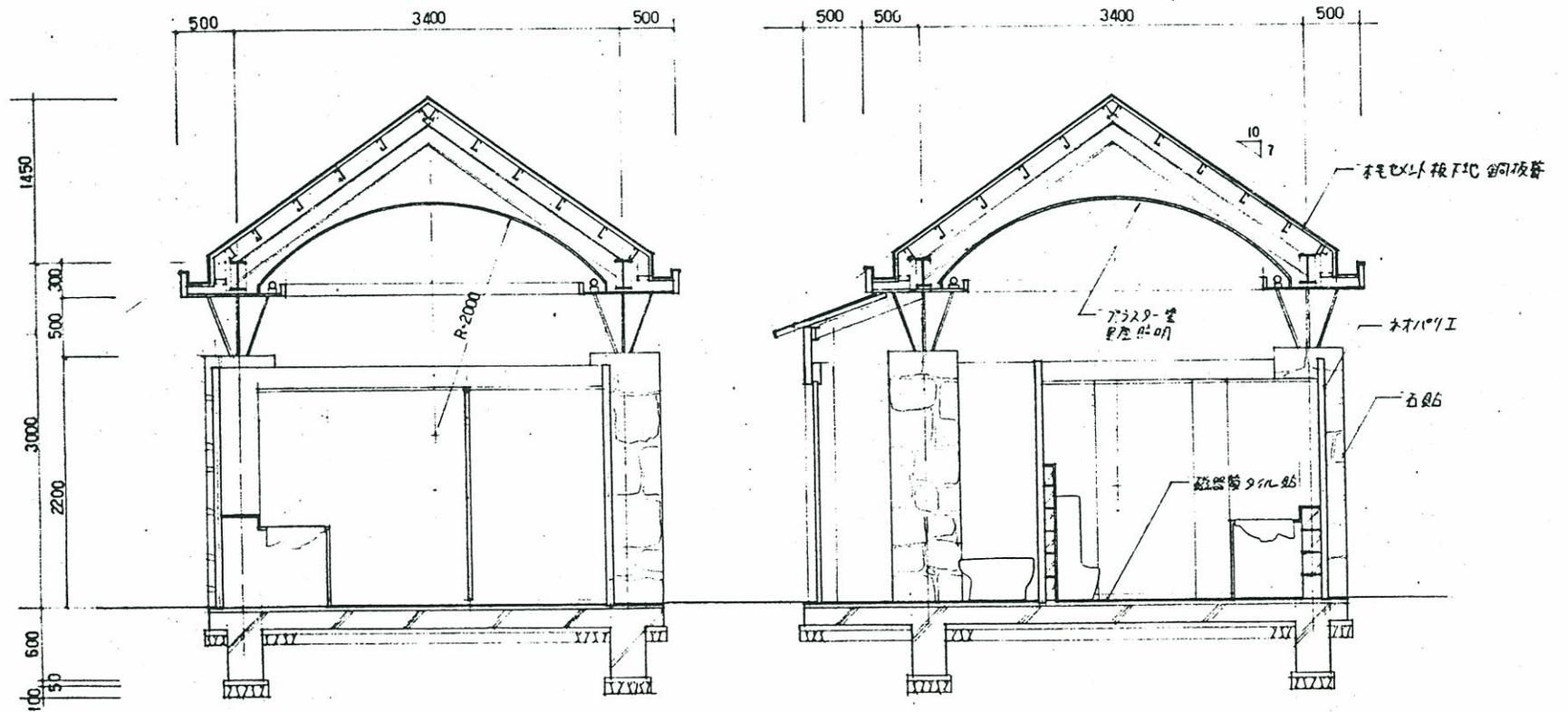
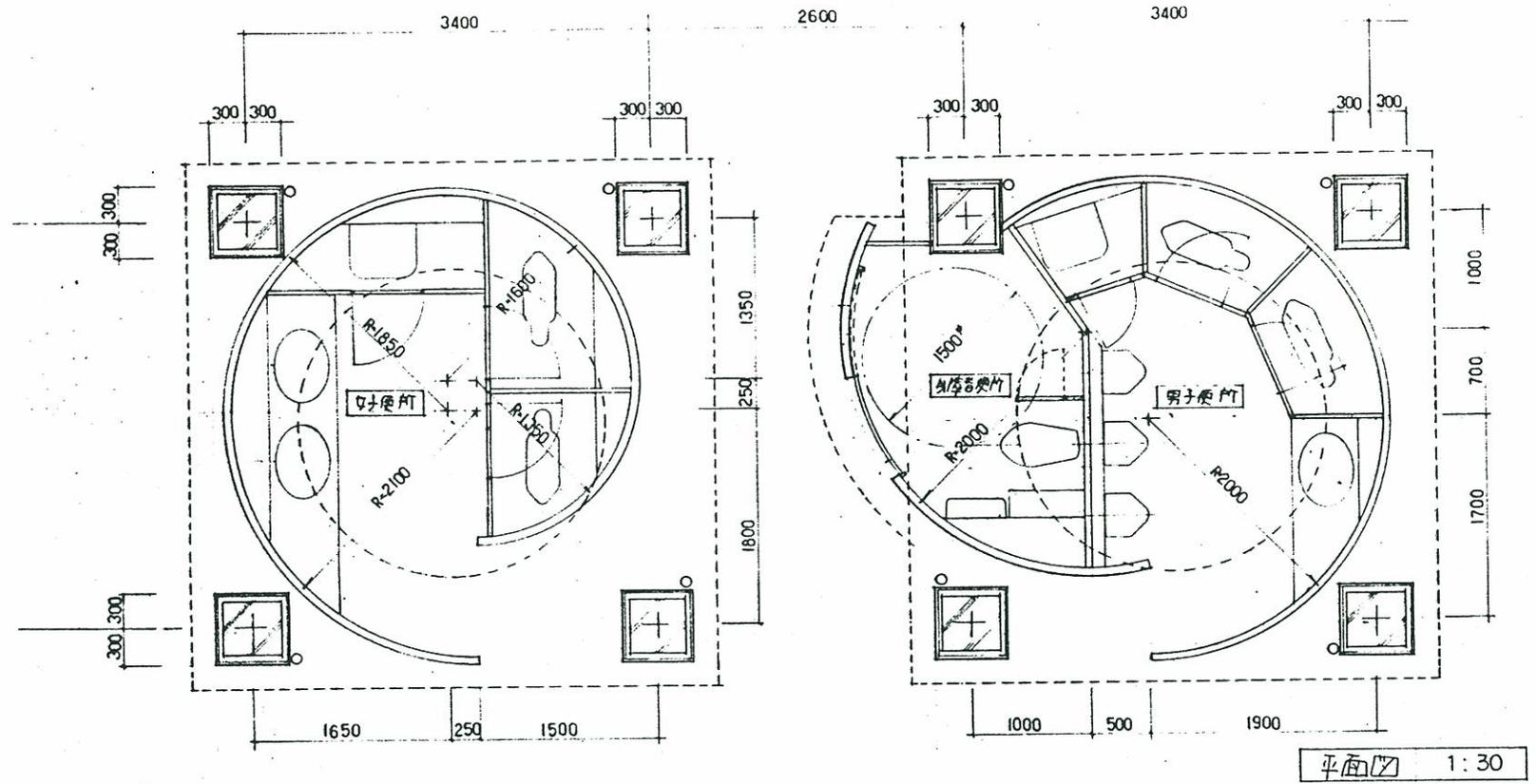
諸元等

- 超音波加湿器 (噴霧型)
WM-BNB8000×2基
- ・タイマー式 (自動)
 - ・受水タンク 50ℓ
 - ・給水ポンプ 0.1kw
 - ・消費電力 1.5kw
 - ・上水自動補給 25A
 - ・消費水量 8ℓ/基・h
- { 1日5時間2基稼働の場合 }
- 80ℓ/日 ≒ 24円/日
- 計器盤
中央ピアー脇床置
- メンテナンス
4回/年 点検、清掃

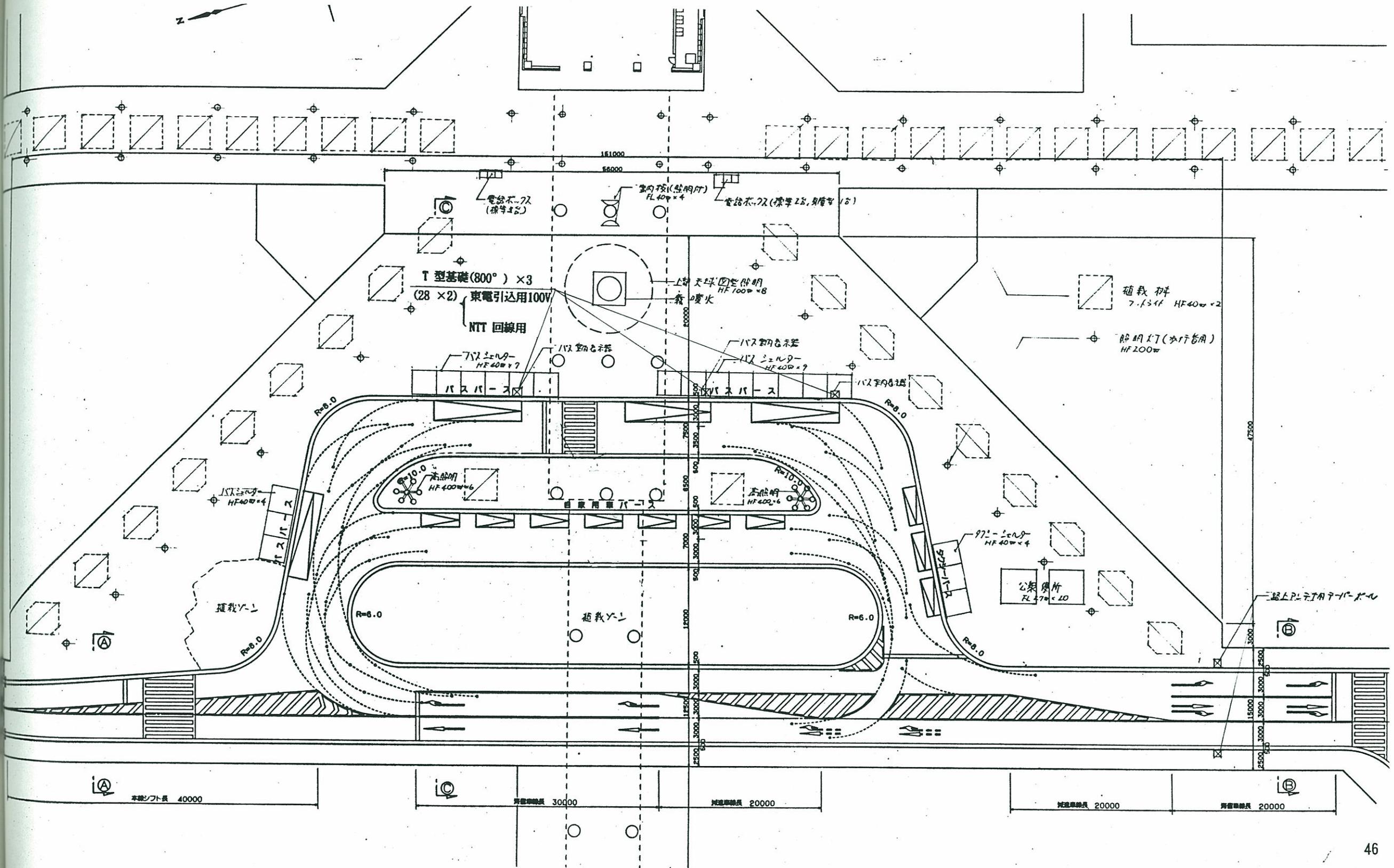
⑦ 舗装計画基本設計図







⑩ 設備計画基本設計図



IV 実施設計への課題

1 両駅前広場の共通課題

(1) 歩行者専用道路との一体的設計

- ・照明、植栽、舗装に関して、駅前広場と連続する歩行者専用道路と一体的な設計を行う。

(2) 歩車道段差

- ① バス利用者を意識した適正な高さを検討する。
- ② タクシーバース部分は、車イス利用者のため、歩道の切下げを行う。その際、切下げ範囲とシェルターとの関係を整理する。

(3) 視覚障害者用誘導ブロックの設置

- ・視覚障害者用誘導ブロックを「横浜市福祉の都市環境づくり推進指針（福祉のまちづくり）」に基づき設置する。

2 中川駅前広場

(1) ドーム

- ① 曇りや雨の日には、下が暗くならないよう照明の設置を検討する。
- ② ドームにより北側の宅地に日影の影響を及ぼさないように、規模等について再検討する。

(2) 歩行者照明

- ・シェルターから外に出した照明を検討する。

3 大熊駅前広場

(1) 霧噴水

- ① 維持管理をできるだけ軽減する構造を検討する。特に、制御盤を地上設置として外に出すと共に、地下構造の換気を図る。また、地上機器は歩行者の通行の妨げにならない位置を検討する。
- ② 水受けはごみが溜まらないよう工夫する。

(2) 歩行者用照明

- ① 十分な照度を確保する。
- ② 高さについては歩行者が眩しくないような高さを検討する。

(3) 高架下照明

- ① 振動で電球が切れやすいので、防振構造にする等の工夫を検討する。
- ② 鉄道の桁への共架について、横浜市交通局との調整を図る。

資料編

1 横浜市との協議経緯

(1) 横浜市関係課長説明 (平成4年5月7日)

(出席) 横浜市

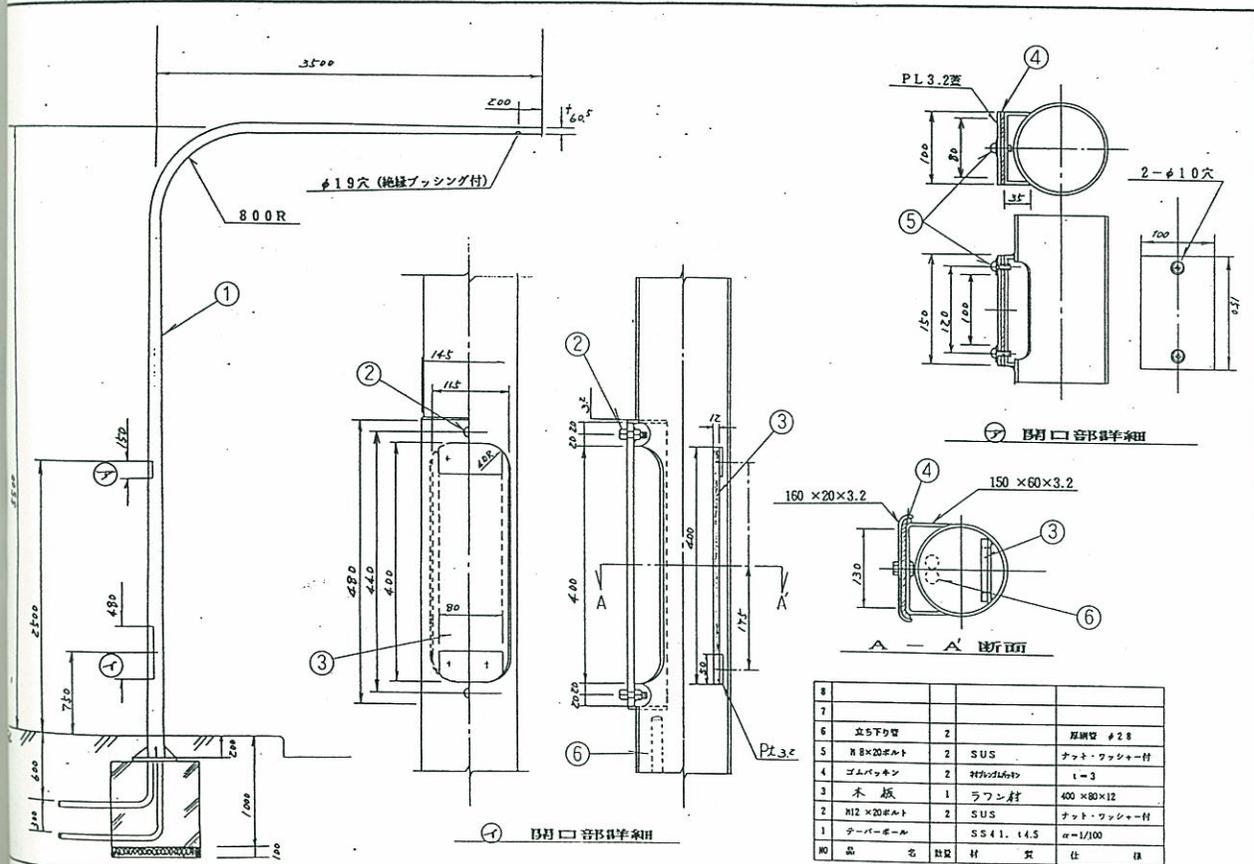
道路局	道路部	維持課・管理課・施設課
	建設部	北部建設課
	港北土木事務所	
	緑土木事務所	
都市計画局	港北ニュータウン建設部	事業調整課
住宅・都市整備公団	港北開発局	
	事業部	事業計画第一課
		事業計画第二課
		担当専門役
	工事部	工事計画課
		工事第一課
		工事第二課
		担当専門役

(2) 横浜市道路局長説明 (平成4年5月27日)

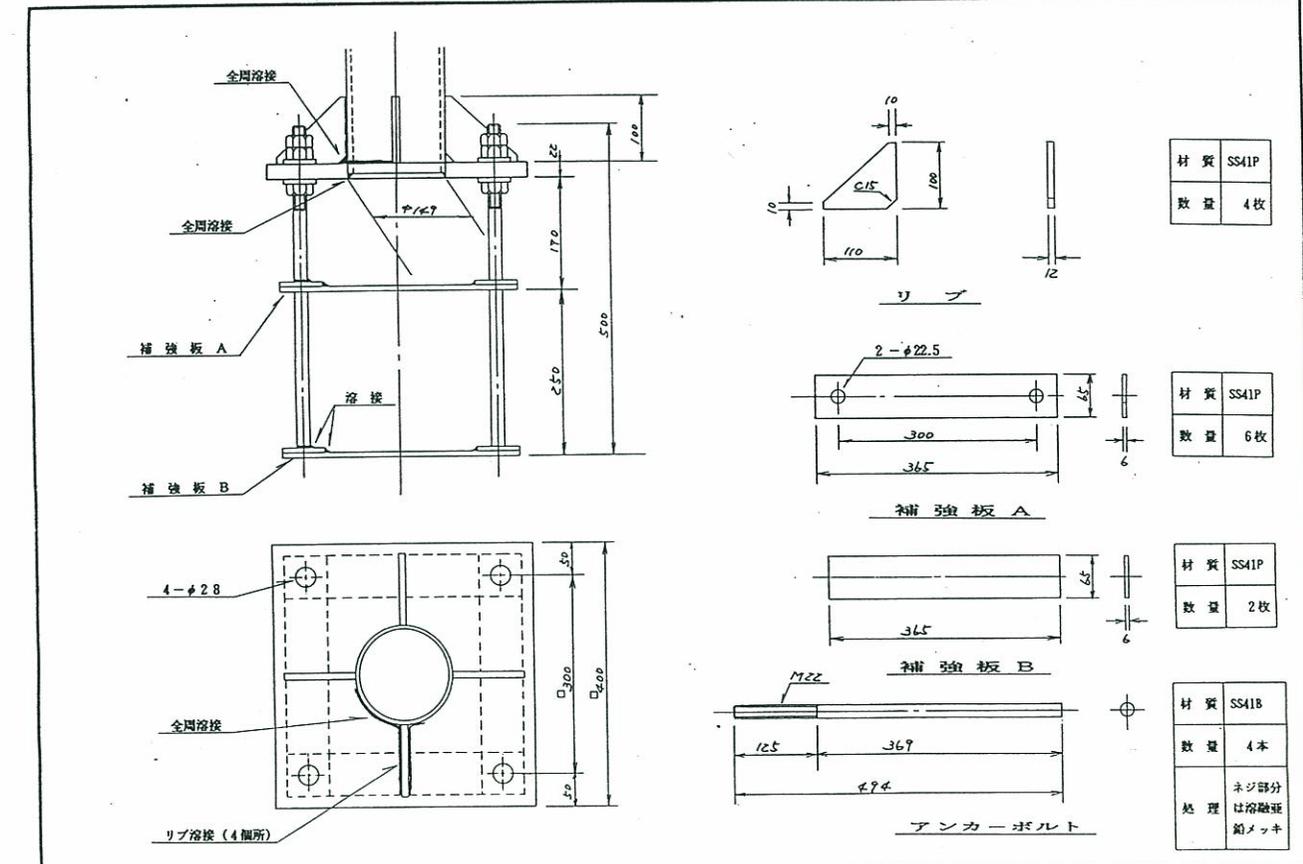
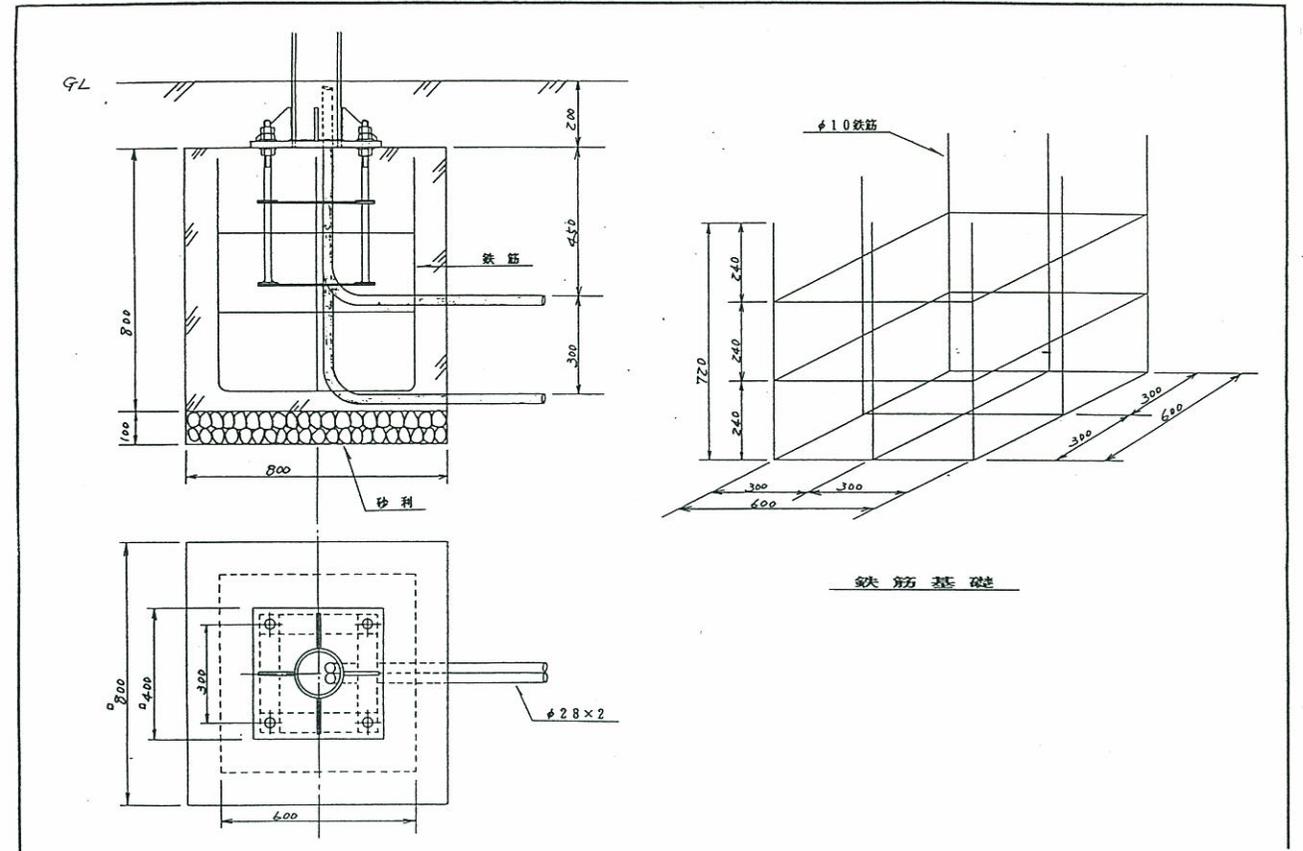
(出席) 横浜市

道路局	局長
	道路部
	建設部
	港北土木事務所
	緑土木事務所
都市計画局	港北ニュータウン建設部
住宅・都市整備公団	港北開発局
	局長
	事業部
	工事部

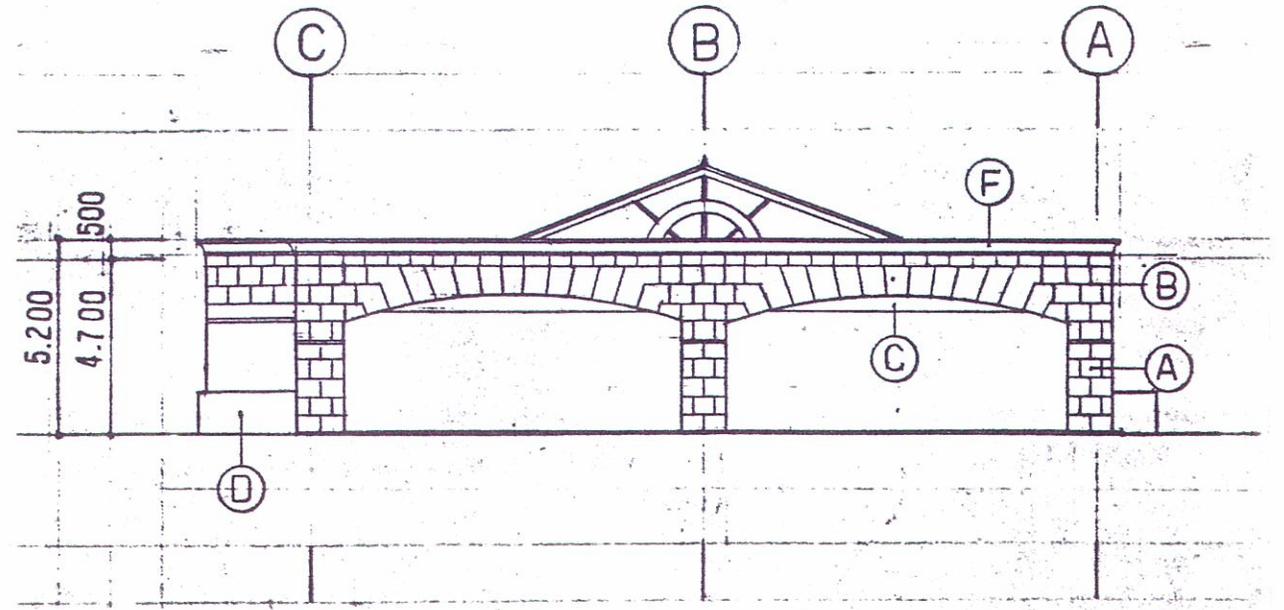
3 テーパーポール施工図



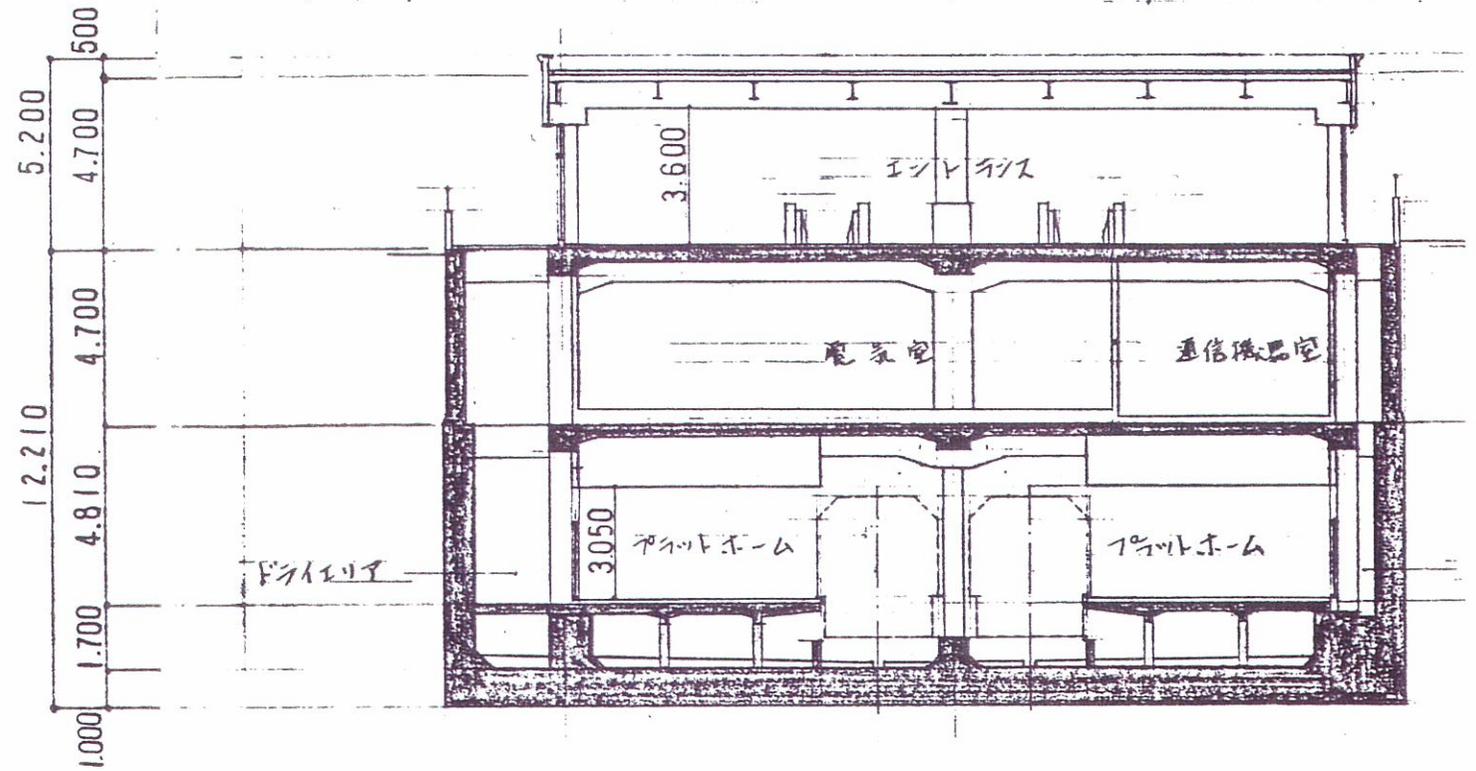
横浜市交通局 電車部 電気課
 部長 課長 係長 照査 設計
 日付 尺 工 事 件 名 図 面 名 称
 図 号 テーパーポール基礎施工図



横浜市交通局 電車部 電気課
 部長 課長 係長 照査 設計
 日付 尺 工 事 件 名 図 面 名 称
 図 号 テーパーポール（ベース部分）詳細



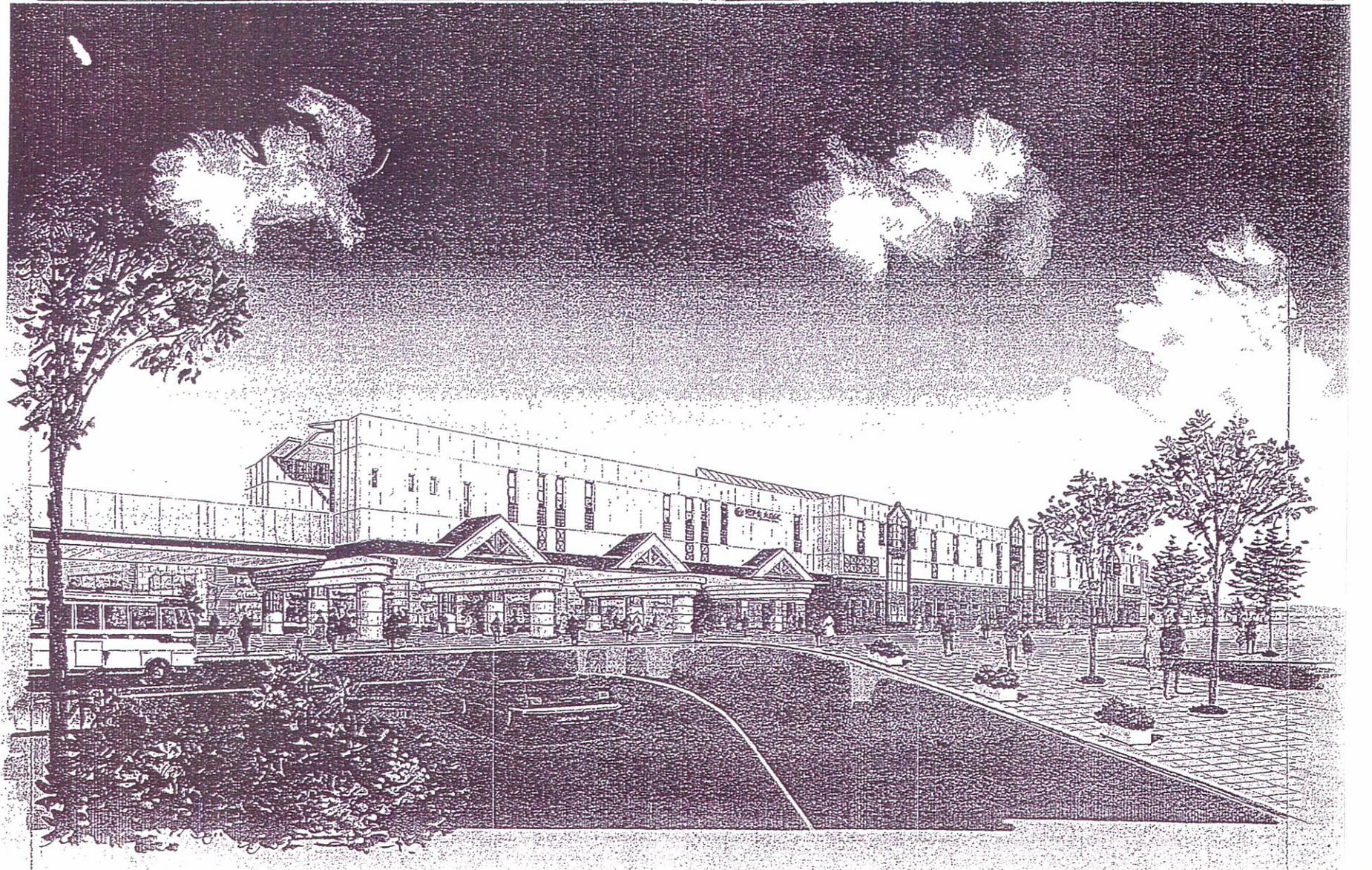
A 棟 東 側 立 面 図 S 1:200

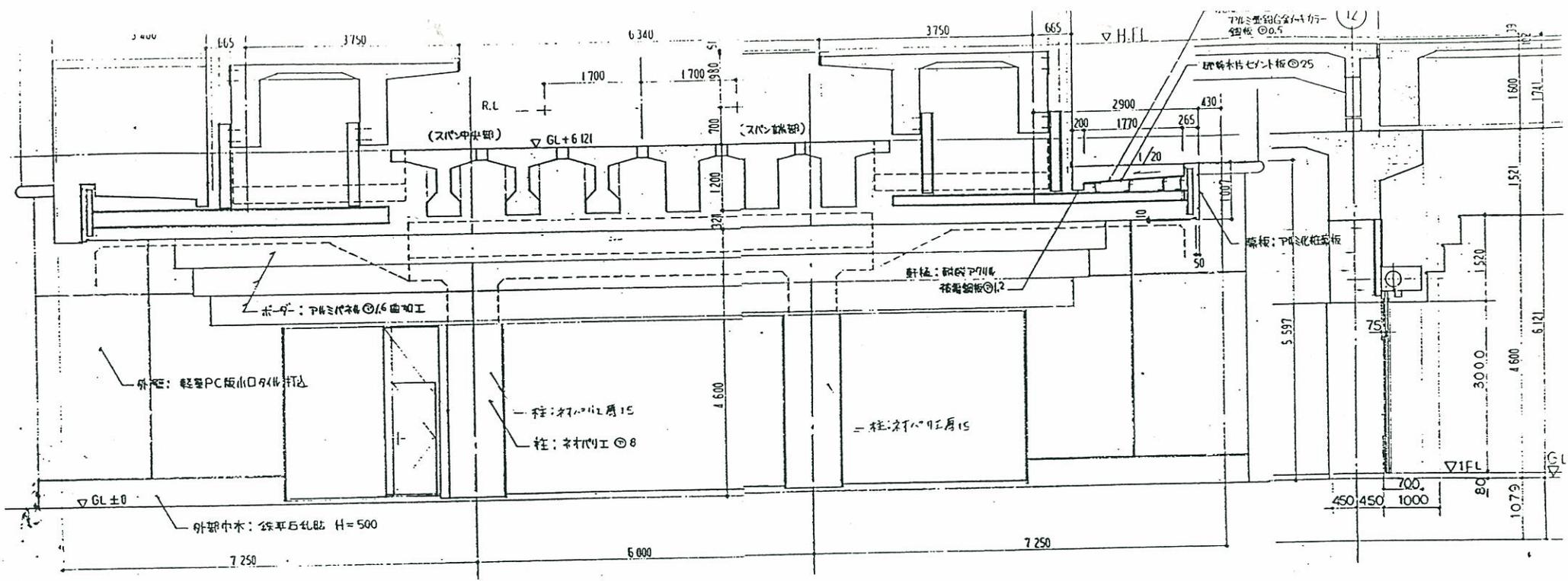


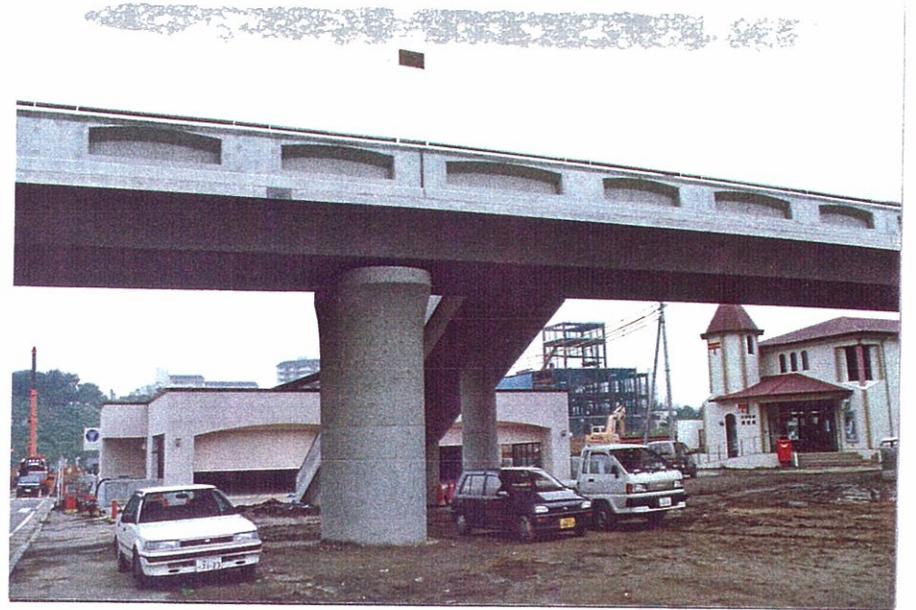
V-V' 断 面 図

S 1:200

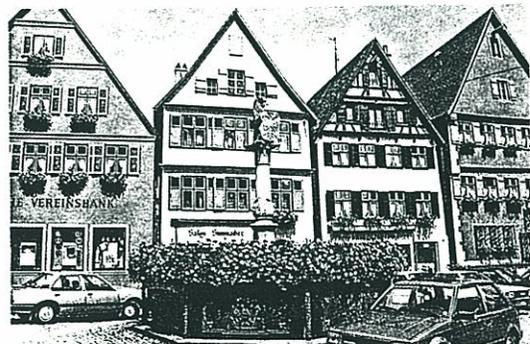
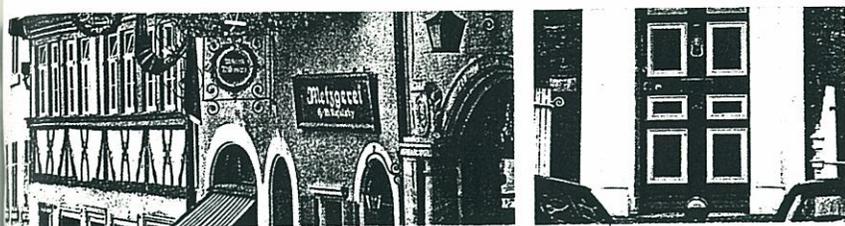
(2) 大熊駅







6 中川駅前センター街づくり協定



港北ニュータウン
中川駅前センター街づくり協定

発行：(財)港北ニュータウン生活対策協会

協力：中川駅前センター街づくり協定運営委員会、横浜市都市計画局港北ニュータウン建設部、住宅・都市整備公団港北開発局

●趣 旨

(1) 協定書の目的

本協定書は港北ニュータウン中川駅前センターにおいて、駅前センターとしてふさわしい商環境、住環境を維持し、調和のとれた街づくりを目指すことを目的とする。

(2) 街づくりの基本方向

港北ニュータウンのセンター計画は、南北のタウンセンターをはじめ4つの駅前センターと6つの近隣センターから構成されており、それぞれのセンターの適切な機能分担と、個性化、特徴づくりがセンターの活性化につながるものと考えられる。

そこで中川駅前センターの地形的条件、緑豊かな周辺環境などから考え、“ネオ・ロマンチック”ヨーロッパイメージの街をつくり地域生活者に快適な環境を提供しようとするものである。

●協定事項

イメージテーマである“ネオ・ロマンチック”ヨーロッパの街並みを中川駅前センターで作って行くために以下の事項を設定する。

(1) 中川駅前センター街づくり協定運営委員会(以下「運営委員会」という)は、(仮称)中川駅前商店会(以下「商店会」)の一組織として、街づくり協定作成と運営を行う。

(2) 建物の新築及び改築の場合

①施主等関係人は、建物の実施設計に先立って、できる限り早期に計画概要を、運営委員会に説明するものとする。運営委員会は、関係団体・機関(横浜市、生活対策協会、住宅都市整備公団)と協議し、調和の取れた街づくりを進めるために事前調整を行う。

②上記の事前調整事項は概ね次のとおりとする。

A. 建築形態に関する事項

1. 壁面後退
2. 外装
3. 街並み
4. 色彩
5. 建築設備
6. 駐車場、荷捌き場
7. 駐輪場
8. 看板、広告物
9. ゴミ置場
10. シャッター
11. 日よけテント
- その他

以上の項目については協定細目に定める。

B. 建築用途に関する事項

建物1階部分の用途は極力、物販・飲食・サービス店とし、住宅、業務等の使用を避け、商店街にふさわしい店舗づくりを行うこととする。

(3) ショッピングモールの清掃、管理

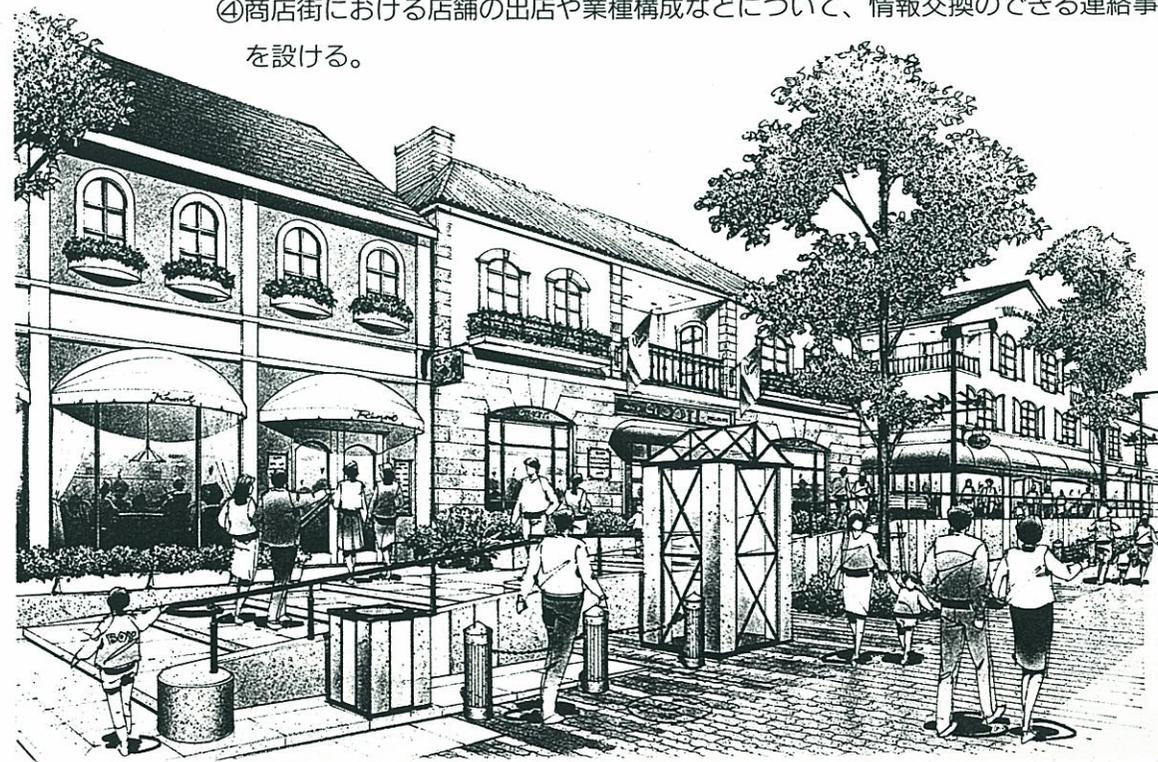
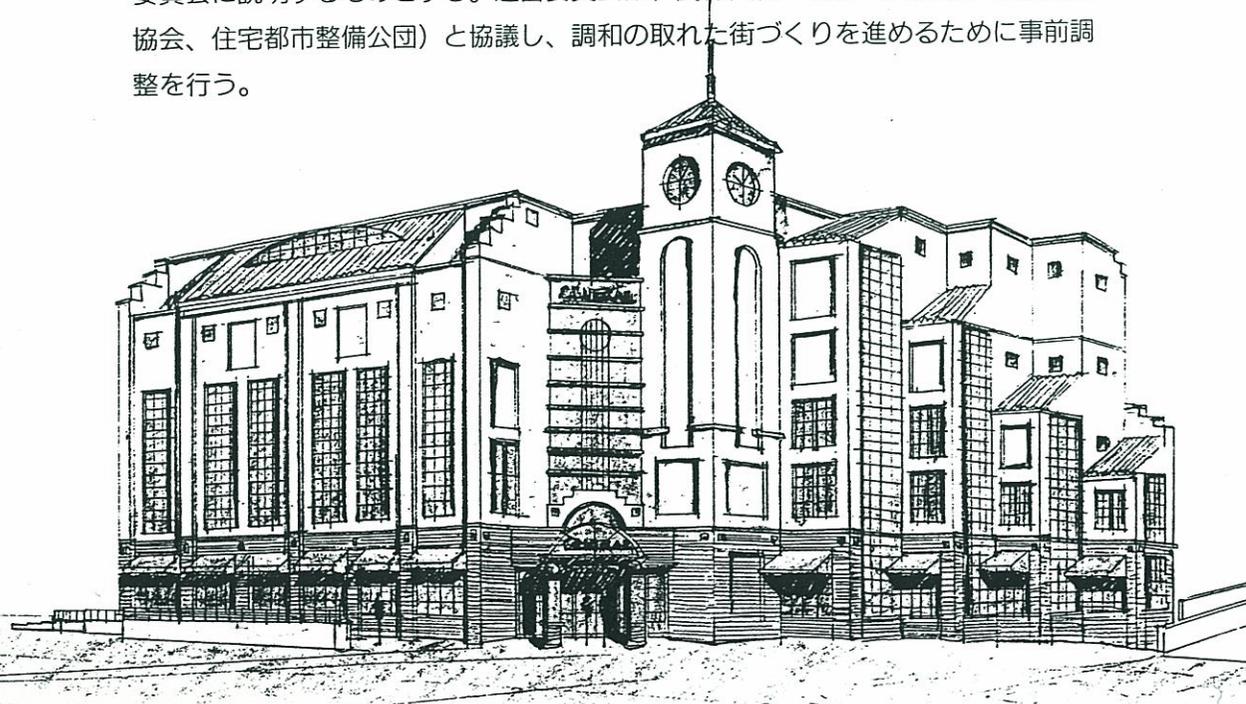
歩行者専用道路の清掃、管理は、商店会と会員が共同で行う。

(4) 協定の変更及び廃止

この協定にかかる協定区域、協定細目を変更及び廃止する場合、運営委員会は関係機関と協議のうえ、その取扱いについては別途定める。

(5) その他

- ①街づくり事業の推進に伴い派生する各店別の必要工事については、原則として各店の費用負担により行うこととする。
- ②街づくり事業に関する事項については、関係者と運営委員会は十分事前協議し、その効果をあげるべく努めるものとする。
- ③上記各事項の細目については必要に応じ、別途、取り決めることとする。
- ④商店街における店舗の出店や業種構成などについて、情報交換のできる連絡事務局を設ける。



港北ニュータウン中川駅前センター街づくり協定細目

壁面後退 建築物の外壁若しくはこれに代わる柱の面は、計画図に示す道路の境界線より、1.5m以上後退して建築しなければならない。

ただし、道路地盤面より7m以上かつ3階の床以上の建築物の部分についてはこの限りでない。また、壁面後退部分における地盤面の仕上げは道路と一体感のある仕上げとする。

外 装 (1) かたち
角地建築物にあつては、ヨーロッパの落ち着いた、やわらかいイメージを演出するため、交差点側隅角の鋭角仕上げは極力避ける。

(2) 材質
耐久性に優れ、維持管理の容易なもの。またイメージテーマにあわせヨーロッパ的なイメージを持つ素材を極力使用する。
(例) レンガタイル、自然石（インドさがん）などを極力用いる。
また、金属系の材質は極力避ける。

街 並 み (1) 顔
歩行者専用道路と車道の両方に面する建築物は、そのファサード（顔）を歩行者専用道路側に向ける。

(2) 屋根
屋根は、極力寄せ棟、切り妻型の勾配屋根形式で統一する。

(3) 窓
窓は、極力出窓や丸窓（曲線をいかした窓）などに意匠統一する。

色 彩 屋根、外装などはイメージに合わせ、やわらかな色彩に統一する。
(例) 茶系などの暖色系を用いる。

建 築 設 備 (1) 屋上施設
屋上設備は、壁面の立ちあげ、または、ルーバーにより四周を覆うなど通りから容易に望見されないように配慮する。

(2) 壁面設備（給排水管等）
給排水管などは、極力建築物内部に取り込むようにする。また、取り込めない場合には次のように配慮する。

- 通りからは見えない位置に設ける。
- 壁面と同一の色彩にする。
- 壁面デザイン構成要素として工夫する。

駐車場、荷捌き場 ● 住戸数の50%以上かつ業務形態に応じた必要駐車台数を設ける。
● 駐車場及び荷捌き場は敷地内の車道側に確保する。ただし、敷地内に確保できない場合は他の敷地に別途駐車場を確保する。
● 駐車場には植栽帯などを設け、景観に配慮する。
● 駐車場への出入口は車道側に設ける。

駐 輪 場 駐輪場は車道側に設ける。

看板・広告物 看板・広告物はヨーロッパのイメージにマッチしたものにし、適切な配置、スペースに配慮する。

- (1) 袖看板
- 極力小さなものとし、地上からの高さ3.5m以上、建物からの出幅を1m以内とし、上下寸法を2m以内とする。また、箱型袖看板は極力避け、やむを得ない場合は地上からの高さ4.5m以上、建物からの出幅を80cm以内とし、上下寸法を1m以内とする。
 - 袖看板は1建物に1個を原則とするが、複数の店舗が入る場合は別途、運営委員会に協議する。
- (2) 壁面看板
- ファサード（顔）を重視し、各個店の個性をいかしたものとす。
 - 壁面看板の大きさは、建物の1壁面の面積が50㎡以上のものは、極力その1壁面の面積の1/10以下とし、1壁面の面積が50㎡未満のものは、極力5㎡以下とする。
 - 看板は袖看板と壁面看板のみとし、他の看板、広告物は避ける。
 - 看板、広告物は敷地内におさめる。



ゴミ置場

- ゴミ置場は車道側に設ける。
- 極力一時保管用のゴミ置場を設ける。また、植栽帯を設けるなど目立たないように配慮する。
- 生ゴミが発生する店舗においては、各自、敷地内にゴミ置場を設ける。

シャッター

- シャッターは、街の賑わいや美観を確保するため、シャッターの構造(パイプシャッターなど)、色彩、デザインなどの工夫をする。

日よけテント

- 日よけテントは街並景観に配慮したものとする。
- 歩行者の通行に妨げにならないよう、日よけテントの高さは地盤面から2.5m以上離す。
- 日よけテントは敷地内におさめる。

その他

- その他、留意しなければならないものとして次の項目をあげる。
- 空き地の管理については、迷惑をかけぬよう適切な維持管理を行う。
 - 銀行など、早い時間に閉店する店舗は、賑わいが途絶えぬよう配慮する。
 - 歩行者専用道路に面する部分は、なるべく壁面後退し快適な空間を演出する。

適用の緩和

- 事前調整の結果、運営委員会が支障ないと認めたものは、この協定細目の規定の適用を緩和することができる。

効力の発生

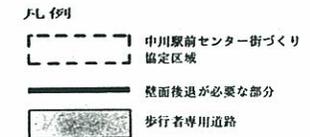
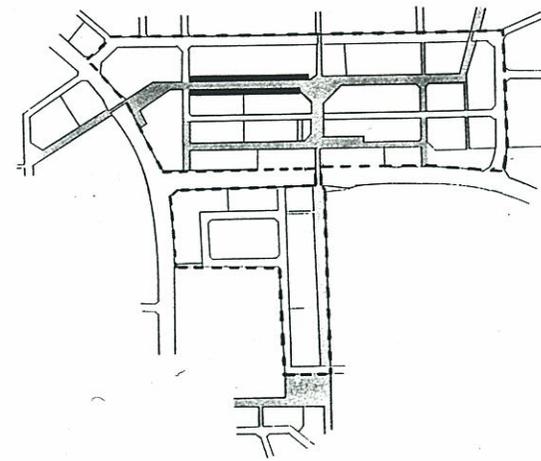
- この協定は平成2年2月14日から施行する。

平成2年2月14日
中川駅前センター街づくり協定
運営委員会

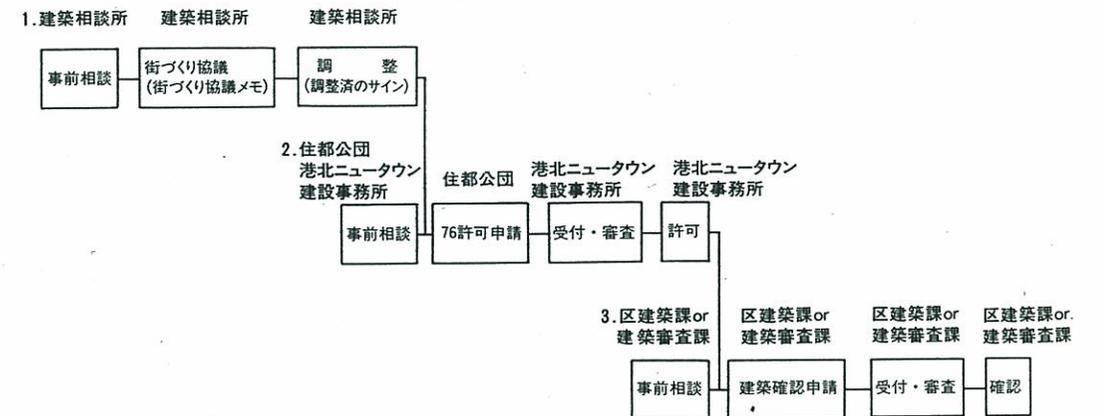
(この協定は平成2年2月14日の中川駅前センター地権者総会で決定されたものである。)



港北ニュータウン中川駅前センター街づくり協定区域図



中川駅前センター街づくり協定区域内の建築確認申請等手続きの流れ



1. 「街づくり協定」に関する手続き
横浜市建築局港北ニュータウン建築相談所 ☎942-8753
 2. 土地区画整理法76条許可申請に関する手続き
住宅・都市整備公団港北開発局 ☎943-7407 港北ニュータウン建設事務所 ☎942-2481
 3. 建築基準法に関する手続き
港北区建築課 ☎543-1212 緑区建築課 ☎933-1212 建築局建築審査課 ☎671-2937
- (注)建築確認申請の受付窓口は区建築課です。

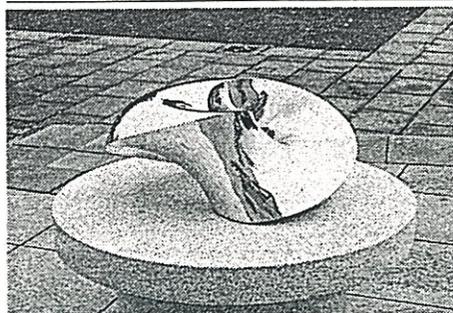
7 横浜市交通局の駅前広場への彫刻設置について

駅前の彩りに彫刻

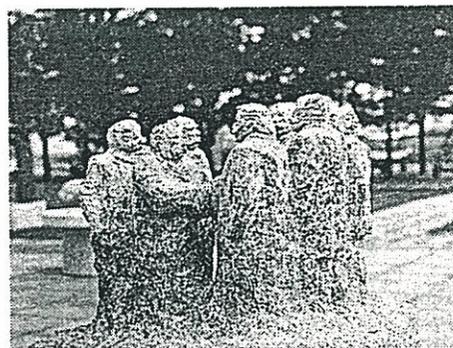
新羽、大熊、中川駅に5作

横浜市営地下鉄

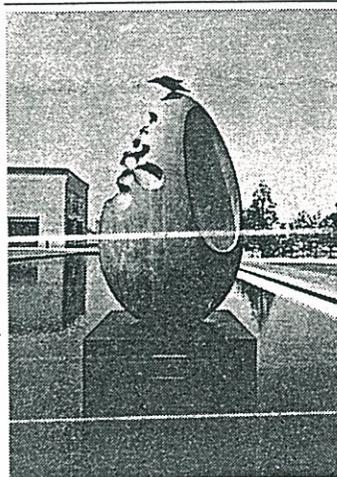
横浜市は二十日、五年度の三駅の駅前広場に計五作品の彫刻を設置することを決めた。昨年の横浜彫刻展(目)大熊、中川の三駅に設けら



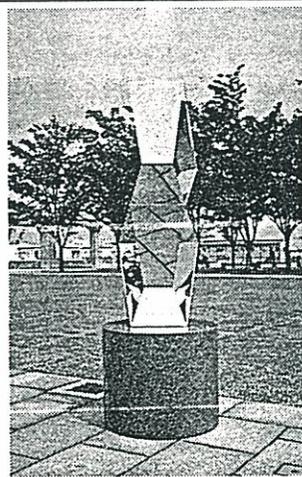
「半分に取り取られた太い輪」
＝大熊駅



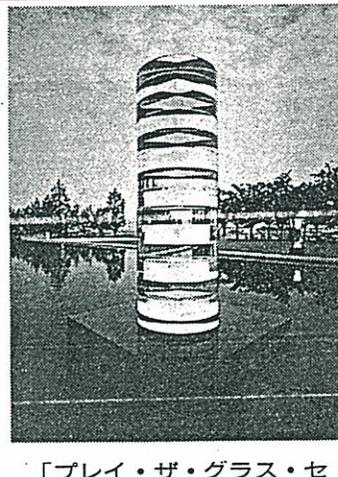
「集う人達」＝中川駅



「オーロラ」＝大熊駅



「イヴの総て」＝新羽駅



「プレイ・ザ・グラス・センプリーチェ」＝新羽駅

れる。

市は地下鉄建設に際して、市民に親しまれる駅づくりの一環として駅にレリーフや絵タイルなどを設置しており、既存の二十駅のうち十一駅にはレリーフが設置されている。

今回、設置が確定したのは、「文化的環境づくり」「魅力ある街づくり」を指して開催した横浜彫刻展の入選作品で、新鋭、中堅彫刻家の作品群。抽象作品

が大半で、高さ〇・八〜二〇メートル、幅〇・五〜一〇メートル。素材は、ガラス、スチール、石、ポリエステル樹脂、コンクリートなど。全部で七駅あり、確定した三駅以外では、南新羽、あざみ野駅にレリーフ、センター北、南の両駅には彫刻が検討されている。三駅に設置される作品と作品の趣旨は次の通り。

【新羽駅】▼プレイ・ザ・グラス・センプリーチェ(増田洋美) 光学ガラスが素材で軽い何かが宙に浮いている状態を表現▼イヴの総て(水谷忠敬) 鏡面に映される風景と空間の変化が現代生活を象徴。

【大熊駅】▼半分に取り取られた太い輪(中津川督章) 設置場所の空気、雨が表面の変化を促しやがて本来の形を現す▼オーロラ(浜野邦昭) 自然の魂の叫びが隅々に響き渡れば、この鳥も緑の中に飛び立つかもしれない。

【中川駅】▼集う人達(零胸無蔵) 多くの人との出会いを一つの形にし、人々が集まるところに平和があることを願う。

